

# 大阪医科大学学報

第36号 平成10年5月



構内桜景色

## ◆目

平成10年度医学部・大学院入学宣誓式	2~4
附属病院長に再任されて	5
最終講義	6
規程改正	7~16
人事 〔法人、採用、退職、昇任、異動 〔休職、復職、委嘱・解嘱、海外渡航他〕〕	16~23
平成10年度の主な事業計画	23
会議・行事予定	23~25
平成10年度収支予算	26~28
平成10年度入学試験・国家試験状況	28
学位記授与	29~30

## ◆次

平成10年度科学研究費補助金内定	31~33
平成9年度卒業証書・学位記授与式	33
中山国際医学医療交流センター関係	34~35
教室紹介	36~37
学内行事	37
海外研修に参加して	38~39
附属病院関係	40
保健管理室からのお知らせ	41~42
新入生学外合宿 他	43
俳句	43
吉津度先生胸像除幕式	44

## 平成10年度医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式

医学部医学科および大学院医学研究科の入学宣誓式が快晴の下、4月3日(金)午後2時から臨床第1講堂において挙行され、医学部医学科100名、大学院医学研究科45名が入学しました。



### 学 長 告 辞

入学生の皆さん、本日は大阪医科大学にご入学、誠におめでとうございます。ご父兄の皆さんもこの度のご子弟、ご息女のご入学を心からお慶び申し上げます。

さて、我々大阪医科大学の教職員ならびに在学の諸君にとりまして、本日ここに平成10年度の入学宣誓式を挙行し、本学に100名の新しい入学者、ならびに45名の大学院研究科学生を迎えることができましたことは、誠に慶賀すべきことであります。

本学におきましては、一昨年より、医学部医学科の入学宣誓式と医学部大学院研究科の入学式の両方を同時に挙行いたしております。入学と言うのは、希望と夢に満ちて嬉しいものがあります。数ある人生のエポックの中でも、最も喜ばしいイベントとして、本日、この日があります。タイムカプセルがあれば、そこにこの日

の感激・希望を記入して入れたいものであります。私は新入学生の皆さんを始めここにご出席の皆様方と共に、心から喜びを分かちあいたいと思います。

さて、入学という言葉は、ドイツ語で Eintrit と申します。最近は余りドイツ語を使うことは無くなりましたが、私自身旧制大学の教育を受けました頃は、まだこういう言葉もはやっておりました。入学するとは、eintreten です。treten は足を踏み入れるというので、分かりやすい言葉です。入学式は Eintrit Zeremonie で、英語で Entrance Ceremony に当たります。Entrance は、enter から来た言葉です。Trans は「向こう側に越えて」の意味のラテン語であり、En は In と本質的に同じ語源ですから、「別領域に行く」、ひいては「有頂天にする」という意味をも持っています。入学は別世界に入るので心が躍る道理であります。

本学の創立は、昭和2年、すなわち1927年の2月に遡り、今から71年も昔のことです。ドイツ語が華やかな頃でした。創学されたのは、大阪府三区選出の衆議院議員であり、また医師でもあった吉津 度先生でありまして、大阪高等医学専門学校として開学し、戦後昭和21年に大阪医科大学になりました。吉津先生の胸像は、この講堂の建物の斜め向かいの本館・図書館棟の入口ロビー正面にあり、また当時の初代校長の足立文太郎先生の胸像は12階建ての本学総合研究棟の一階ロビーにあります。

本学が創立された時期は、実地医師の不足が唱えられていた頃で、本学に引き続いて、久留米大学医学部（当時、九州医学専門学校）や関西医科大学（当時大阪女子高等医学専門学校）、その他岩手医専、昭和医専などが続々誕生したのです。我々の大学は昨年10月4日に創立70周年式典を挙げましたが、本年4月11日には久留米大学が、また6月27日には関西医科大学が70周年式典を挙げられると聞き及んでおります。

本学の卒業生は、今や総数は7451名に達し、これは全国医師数約24万人の中の約3%であります。まさに「有為の栄光の集団」というべきであります。今日までの卒業生の中には、本日も臨席を仰いでおります本学理事長の田中忠彌先生も、外務大臣を務められた中山太郎先生もあなた方の先輩です。さらに亡くなられたお方の中でも、永らく大阪府医師会長から日本医師会副会長を務めておられた中村安治郎先生をはじめ、またこの一両年にご他界になった細川修治元学長、山中太木元学長も、本学の先輩でありました。

我々の大学は、創立後、喜寿を迎えた大学なのですから、これからも卒業生の中から社会のトップで活躍される先生方の数もますます増えることでしょう。皆さんは、これらの先輩達の良い面を見習って、自分の道を着実に歩んでいただき、「自信と誇りをもって、社会から求められる徳のある医師になる」ように努めて欲しいと希望いたします。

皆さんは、医学の道を選ばれました。医学は「人の健康ならびに病気の予防・治療を講じる学問」であります。今社会から求められてい

る医師像は、「患者の心」が分かる医師でありましょう。今後は、病気の治療・予防を一步超えて、「予知の医学」を目指す時代になって参ると思われまふ。医学の現場では、これまで余り行われていなかった「遺伝子治療」や次々と変遷する病原との闘いが繰り返されまふ。そこに必要なのは、「科学性」「技術性」「人間性」の三者であります。これを言い換えますと、「医学」、「医術」、「医道」の三者を目途に勉強せよということになります。

皆さんは、今まで受験戦争を闘い、入学を果たされ、一先ず勝利を得られました。見えざるものとの闘いでありました。これからの学園生活は、専門として医学部門を学ぶ人間の生涯勉強の「一里塚」です。一里塚といっても、国語はとっていないので知らないと言わないで欲しいものです。江戸時代に全国の街道に約一里（3.9キロ）毎に標識を付け長い道程の節目にしたのです。

中国から伝わった八世紀の禅思想（碧巖録）の中に「艱難汝を玉にす」という格言があります。苦しかった修業、例えば、受験戦争や苦しい社会環境は、それに耐え抜いてこそその人が立派に育ちます。皆さんは、専門プロとしての生涯勉強のごく始まった道程にあります。「大阪医科大学という船に乗った。だから、じっとしていたら『医学士』という学位資格を貰えるルートへ運んでくれて安心だ」と思わないで欲しいのであります。船の中での厳しいトレーニングをパスすることによって、また国家が認める基準をパスする学力の持ち主のみが、プロとしての皆さんの門出となることでもあります。

もう、明日から亀岡ハイツでオリエンテーションが始まります。何事も初めが大切であります。今は当分暗い面をみることなく、前を向いて、将来のための努力の第一歩を踏んで下さい。桜満開のこの時期は、君達を祝福してくれています。どうかこの感激を長く心に刻んで、これからの6年、また大学院の学生諸君は4年間の学園生活を有意義に過ごして欲しいと存じます。その時に今日書き込んだタイムカプセルを開けて下さい。頑張った人には、感激が新たになることでしょう。

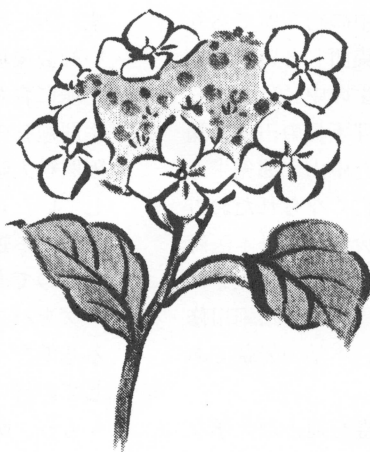
本学には、昔から「懸命不動」と「学を離れて医なし」という言葉が伝わっております。命懸けで勉強・研究に打ち込み、医学に励めという精神でありまして、これは初代校長の足立文太郎先生と初代学長の松本信一先生のモットーとされた格言であります。

私は、本日の良き日に当たり、「健康と情熱と高い理想」をもった入学の皆さんに対して、「懸命不動」「学を離れて医なし」でもって勉学に打ち込み、本学の支えとなって戴くことを望み、これを皆さんの門出のお祝いの言葉と致します。

最後になりましたが、本日皆さんのご入学を祝い、その前途を祝福するためにお忙しい中をご臨席を賜りましたご来賓、名誉教授、教授の諸先生方、並びに教職員の皆様に対しまして、心から感謝し、厚くお礼を申し上げる次第であります。

平成10年4月3日

大阪医科大学学長 藤 本 守





## 附属病院長に再任されて

佐々木 進次郎



附属病院長に再任されるにあたり、病院の現状と将来の展望について私見をのべ、ご挨拶と致します。

大学病院は高度先進技術の研究開発・提供を行う特定機能病院であり、同時に卒前・卒後教育の場でもあります。21世紀医学・医療懇談会においては、とくに後者の「教育病院」としての重要性を強調しております。しかし一方、特定機能病院であることによる医療の多様化や医師の専門医指向に伴い、プライマリケアや救急医療の教育に支障が生じる可能性があります。救急医療や総合医療などの部門を持たない当附属病院の場合、これらの問題をどのようにカバーするか、真剣な論議を進める必要があります。

昨年6月病院オーダリングシステムが稼働を開始し、患者さんの待ち時間の短縮、医事業務などに著しい改善をみております。今後、このシステムに追加拡張を加えて「総合物流管理システム」を導入し、病院経営に役立てるべく計画を進めています。

さて、今日の厳しい医療情勢に対応するために、本年1月附属病院に病院長を委員長とする「病院経営検討委員会」を設置しました。理事会に直結した委員会です。現在「ベッドの有効利用や医療材料費」に関する小委員会が稼働し、効果をあげつつあります。4月中には「新総合棟（7号館）建築計画推進委員会」、「内科診療体制検討委員会」などさらに二つの委員会も発足する予定です。大学創立70周年記念事業の一環としてのいわゆる7号館の建築計画を推進するとともに、さらに高質な医療を提供し、かつ教育病院として十分機能しうる内科診療体制の構築を旨とするものです。

過去2年間の病院長の任務を何とか終えることができました。各位のご協力に深謝申し上げます。今回、再任の委嘱をうけ、大変光栄には存じますものの、厳しさが増す一方の医療事情を考えますと、責任の重さを痛感致しております。皆様の暖かいご支援・ご鞭撻を心からお願い致します。

## 最 終 講 義

本年3月定年を迎えられた、眼科学渡邊教授の最終講義が下記のとおり、臨床第1講堂で行われました。

### <眼科学 渡邊千舟教授>

1. 日時 3月11日(水) 14:00 ~ 15:30
1. 「黄斑疾患に魅せられて」

眼底検査は眼疾患だけではなく、全身病の多くの情報が得られるので、その所見を把握するのは重要である。黄斑部は眼底他部とは組織的に異なっていて、Ruysch膜と称されている網膜色素上皮、Bruch膜および脈絡膜毛細血管板の3者が一体となって網脈絡膜間のBarrier組織として知られている。



黄斑部は他部に変化がなくても、その組織的特徴から Vulnerability (易傷害性)があるために多彩な変化を生ずるので、その所見を詳細に観察する必要がある。ここでは今まで興味をもってみてきた疾患の中から以下のものに的をしぼり述べる。

### 1. 中心性漿液性脈絡網膜症

青壮年者に何らかの原因で脈絡膜血流の循環障害が起きて続発する網膜色素上皮層の萎縮、脱落による網脈絡膜間のBarrier機能の破綻により発症するとされていた。現在まで報告されていなかった発病初期の所見から病巣の完成期まで観察できた症例に遭遇したのがきっかけで、報告例が極めて少ない網膜色素上皮の萎縮、脱落が認められた貴重な症例の組織標本について臨床所見が証明できた。

### 2. 中心性滲出性脈絡網膜症

発病年齢から推して黄斑部脈絡膜毛細血管板の限局性病変、特に疾病に続発するBruch膜の損傷によって脈絡膜からの異常血管が色素上皮下、網膜下に侵入し、検眼鏡検査では出血、滲出斑を伴う病巣として認められる。黄斑中心窩近辺に病巣がみられるので、中心視力低下があり、治療が困難であることが多い。

### 3. 加齢性黄斑変性

従来は老人性円板状黄斑変性と称されていたもので、殆どが65歳以上の高齢者にみられ黄斑部Bruch膜の弾力線維亀裂によって、脈絡膜起源の複数の異常血管が網膜下に侵入して高度の滲出、出血をきたして失明状態に至る経過をとることが多い。

以上の疾患の臨床症状、眼底所見、診断に必要なFluorescein 蛍光眼底像の特徴と、それを裏付ける組織所見を呈示した。また今日の治療法として欠かせない光凝固療法の実際について言及した。

# 規 程 改 正

## 就業規則の一部改正について

月7休制の本実施に伴う、就業規則中の勤務時間、休日、休暇に関する条文等について、次のとおり改正されました。

### （関係条文新旧対照表）

新	旧
<p>第7条 職員の労働時間は、1ヵ月（1日～末日）を平均して1週間の労働時間が40時間を越えない範囲で、変形労働時間制をとる。</p>	<p>第7条 職員の労働時間は、週40時間以内とする。 但し、職種によっては、業務の必要から、4週間を平均して1週間の労働時間が40時間を越えない範囲で変形労働時間制をとる。</p>
<p>第8条 職員の勤務時間及び休憩時間は、次のとおりとする。</p> <p>一 教育職員 事務職員（図書館・病院看護部・栄養給食課に勤務する者を除く。） 技術職員（電話交換手・栄養給食課に勤務する者を除く。） 別表1</p> <p>二 図書館に勤務する事務職員 別表2</p> <p>三 病院看護部に勤務する事務職員 別表3</p> <p>四 栄養給食課に勤務する事務職員 別表4</p> <p>五 電話交換手 別表5</p> <p>六 栄養給食課に勤務する技術職員 （ア）事務室担当者（栄養士） 別表6 （イ）一般食担当者・特別食担当者（栄養士、調理師） 別表7</p> <p>七 看護職員 （1）看護婦、准看護婦 （ア）看護部長室及び外来勤務者 別表8 （イ）病棟勤務者 別表9 （ウ）中央手術室勤務者 別表10 （エ）中央材料室勤務者 別表11 （2）看護補助員 （ア）病棟勤務者 別表12 （イ）外来勤務者 別表13 （ウ）中央手術室勤務者 別表14 （エ）中央材料室勤務者 別表15 （オ）保育室勤務者 別表16 （3）保母 （ア）病棟勤務者 別表17 （イ）保育室勤務者 別表18 （4）看護助手 別表19</p>	<p>第8条 職員の勤務時間及び休憩時間は、次のとおりとする。</p> <p>一 教育職員 事務職員（図書館・病院看護部・栄養給食課に勤務する者を除く。） 技術職員（電話交換手・栄養給食課に勤務する者を除く。） 別表1</p> <p>二 図書館に勤務する事務職員 別表2</p> <p>三 病院看護部に勤務する事務職員 別表3</p> <p>四 栄養給食課に勤務する事務職員 別表4</p> <p>五 電話交換手 別表5</p> <p>六 栄養給食課に勤務する技術職員 （ア）事務室担当者（栄養士） 別表6 （イ）一般食担当者・特別食担当者（栄養士、調理師） 別表7</p> <p>七 看護職員 （1）看護婦、准看護婦 （ア）看護部長室及び外来勤務者 別表8 （イ）病棟勤務者 別表9 （ウ）中央手術室勤務者 別表10 （エ）中央材料室勤務者 別表11 （2）看護補助員 （ア）病棟勤務者 別表12 （イ）外来勤務者 別表13 （ウ）中央手術室勤務者 別表14 （エ）中央材料室勤務者 別表15 （オ）保育室勤務者 別表16 （3）保母 （ア）病棟勤務者 別表17 （イ）保育室勤務者 別表18 （4）看護助手 別表19</p>

新	旧																					
<p>八 労務職員（栄養給食課に勤務する者を除く。） 別表20</p> <p>九 栄養給食課に勤務する労務職員 （ア）一般食担当者（用務員） 別表21 （イ）特別食担当者（用務員） 別表22</p> <p>十 附属看護専門学校清泉寮に勤務する寮母 別表23 （別表は別紙のとおり）</p>	<p>八 労務職員（栄養給食課に勤務する者を除く。） 別表20</p> <p>九 栄養給食課に勤務する労務職員 （ア）一般食担当者（用務員） 別表21 （イ）特別食担当者（用務員） 別表22</p> <p>（別表省略）</p>																					
<p>第16条 職員の休日は、次のとおりとする。</p> <p>一 日曜日</p> <p>二 国民の祝日に関する法律に規定する休日</p> <p>三 月の第2、第4の土曜日及び第1、第3、 第5のいずれかの土曜日又は他の曜日（第一 号、第二号、第四号及び第五号に掲げる日を 除く）の半日（別に定める勤務割振表による。）</p> <p>四 12月29日から翌年1月3日までの日（前三 号に掲げる日を除く。）</p> <p>五 本学創立記念日（第一号から第三号に掲げ る日を除く。）</p> <p>2 業務の性質上、前項により休日を定めがたい 交替勤務、時差勤務等の職員の休日は、次のと おりとする。</p> <table border="1" data-bbox="115 1093 626 1557"> <thead> <tr> <th>対象職員</th> <th>休日</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院栄養給食課 一般食担当者 （栄養士・調理師） 特別食担当者 （栄養士・調理師）</td> <td>第1項の定めによる 年間の休日数と同数 の休日を、3連続勤 務日後の1日を休日 として設けることを 原則として、年間に 割振って設定する。</td> <td>当該月の4 日前までに、 勤務割振表 により通知 する。</td> </tr> <tr> <td>病院看護部 （病棟勤務者） 電話交換手</td> <td>第1項の定めによる月 間の休日数と同数の休 日を当該月に設定する。</td> <td>前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。</td> </tr> <tr> <td>附属看護専門学校 寮母（清泉寮勤務 者）</td> <td>第1項の定めによる年間 の休日数と同数の休日を 年間に割振って設定する。</td> <td>前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。</td> </tr> </tbody> </table>	対象職員	休日	備考	病院栄養給食課 一般食担当者 （栄養士・調理師） 特別食担当者 （栄養士・調理師）	第1項の定めによる 年間の休日数と同数 の休日を、3連続勤 務日後の1日を休日 として設けることを 原則として、年間に 割振って設定する。	当該月の4 日前までに、 勤務割振表 により通知 する。	病院看護部 （病棟勤務者） 電話交換手	第1項の定めによる月 間の休日数と同数の休 日を当該月に設定する。	前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。	附属看護専門学校 寮母（清泉寮勤務 者）	第1項の定めによる年間 の休日数と同数の休日を 年間に割振って設定する。	前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。	<p>第16条 職員の休日は、次のとおりとする。</p> <p>一 日曜日</p> <p>二 国民の祝日に関する法律に規定する休日</p> <p>三 原則として、4週間に土曜日の2日又は8 週間に土曜日以外の2日（別に定める4週6 休実施要項による。）</p> <p>四 12月29日から翌年1月3日までの日（前三 号に掲げる日を除く。）</p> <p>五 本学創立記念日（第一号から第三号に掲げ る日を除く。）</p> <p>2 業務の性質上、前項により休日を定めがたい 交替勤務、時差勤務等の職員の休日は、次のと おりとする。</p> <table border="1" data-bbox="653 1093 1163 1456"> <thead> <tr> <th>対象職員</th> <th>休日</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院栄養給食課 一般食担当者 （栄養士・調理師） 特別食担当者 （栄養士・調理師）</td> <td>第1項の定めによる 年間の休日数と同数 の休日を、3連続勤 務日後の1日を休日 として設けることを 原則として、年間に 割振って設定する。</td> <td>当該月の4 日前までに、 勤務割振表 により通知 する。</td> </tr> <tr> <td>病院看護部 （病棟勤務者） 電話交換手</td> <td>第1項の定めによる月 間の休日数と同数の休 日を当該月に設定する。</td> <td>前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。</td> </tr> </tbody> </table>	対象職員	休日	備考	病院栄養給食課 一般食担当者 （栄養士・調理師） 特別食担当者 （栄養士・調理師）	第1項の定めによる 年間の休日数と同数 の休日を、3連続勤 務日後の1日を休日 として設けることを 原則として、年間に 割振って設定する。	当該月の4 日前までに、 勤務割振表 により通知 する。	病院看護部 （病棟勤務者） 電話交換手	第1項の定めによる月 間の休日数と同数の休 日を当該月に設定する。	前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。
対象職員	休日	備考																				
病院栄養給食課 一般食担当者 （栄養士・調理師） 特別食担当者 （栄養士・調理師）	第1項の定めによる 年間の休日数と同数 の休日を、3連続勤 務日後の1日を休日 として設けることを 原則として、年間に 割振って設定する。	当該月の4 日前までに、 勤務割振表 により通知 する。																				
病院看護部 （病棟勤務者） 電話交換手	第1項の定めによる月 間の休日数と同数の休 日を当該月に設定する。	前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。																				
附属看護専門学校 寮母（清泉寮勤務 者）	第1項の定めによる年間 の休日数と同数の休日を 年間に割振って設定する。	前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。																				
対象職員	休日	備考																				
病院栄養給食課 一般食担当者 （栄養士・調理師） 特別食担当者 （栄養士・調理師）	第1項の定めによる 年間の休日数と同数 の休日を、3連続勤 務日後の1日を休日 として設けることを 原則として、年間に 割振って設定する。	当該月の4 日前までに、 勤務割振表 により通知 する。																				
病院看護部 （病棟勤務者） 電話交換手	第1項の定めによる月 間の休日数と同数の休 日を当該月に設定する。	前月の25日ま で、勤務割振表 により通知する。																				
<p>3 前2項に定めるもののほか、必要と認めると きは、臨時的休日を設けることがある。</p>	<p>3 前2項に定めるもののほか、必要と認めると きは、臨時的休日を設けることがある。</p>																					



新	旧
<p>第23条 職員として採用された後6ヵ月以上勤務した者は、次条に定める範囲内で継続し又は分割(1日又は半日)して年次有給休暇を請求することが出来る。</p>	<p>第23条 職員として採用された後6ヵ月以上勤務した者は、次条に定める範囲内で継続し又は分割して年次有給休暇を請求することが出来る。</p>
<p>第34条 次の各号の一に該当するものは産業医の意見を聞き就業させないことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 <u>ウイルス伝ばのおそれのある伝染性の疾病にかかった者</u></li> <li>二 <u>精神障害のために、現に自身を傷つけ、又は他人に害を及ぼすおそれのある者</u></li> <li>三 <u>心臓、腎臓、肺等の疾病で労働のため病勢が著しく増悪するおそれのあるものにかかった者</u></li> <li>四 <u>病後の健康が充分回復しない者</u></li> </ul>	<p>第34条 左の各号の一に該当する者は就業させない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 <u>癩患者及び開放性結核患者</u></li> <li>二 <u>法定伝染病患者及びその疑似症患者</u></li> <li>三 <u>就業することにより病勢昂進の虞ある者</u></li> <li>四 <u>病後の健康が充分回復しない者</u></li> <li>五 <u>その他医師が就業することを不適当と認めた者</u></li> </ul>
<p><u>附 則</u> (<u>施行期日等</u>) 1 <u>この改正は、平成10年6月1日から施行する。</u></p>	

**別表 1 教育職員**

事務職員（図書館・病院看護部・栄養給食課に勤務する者を除く。）

技術職員（電話交換手・栄養給食課に勤務する者を除く。）

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
通常・ 全日勤務	平日 始業 8 時30分～ 終業16時50分	①11時30分～12時30分 ②12時00分～13時00分 ③12時30分～13時30分 ④12時10分～13時00分 ⑤12時50分～13時40分 ①～⑤のいずれかを交替により与える。	
通常・ 半日勤務	土曜日 始業 8 時30分～終業12時40分		

**別表 2 図書館に勤務する事務職員**

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日 1) 始業 9 時00分～ 終業17時20分	①11時30分～12時30分 ②12時30分～13時30分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	勤務割りは1ヵ月毎に各職員に前月の25日までに通知する。
	平日 2) 始業12時00分～終業20時20分	16時30分～17時30分	
時差・ 半日勤務	土曜日 1) 始業 9 時00分～終業13時10分 2) 始業13時00分～終業17時10分		

**別表 3 病院看護部に勤務する事務職員**

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日 1) 始業 8 時00分～終業16時15分 2) 始業 8 時00分～終業16時20分 3) 始業 8 時30分～終業16時50分	①11時30分～12時30分 ②12時30分～13時30分 ③13時30分～14時30分 ①～③のいずれかを交替により与える。	勤務割りは1ヵ月毎に各職員に前月の25日までに通知する。
時差・ 半日勤務	土曜日 1) 始業 8 時00分～終業12時10分 2) 始業 8 時00分～終業13時30分		

**別表 4** 栄養給食課に勤務する事務職員

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
通常・ 全日勤務	平日 始業 8時30分～ 終業16時50分	①12時30分～13時30分 ②13時30分～14時30分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	
通常・ 半日勤務	土曜日 始業 8時30分～終業12時40分		

**別表 5** 電話交換手

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	1) 始業 8時00分～終業16時20分	11時30分～13時30分の間で交替により60分	勤務割りは1ヵ月毎に各職員に前月の25日までに通知する。
	2) 始業 8時30分～終業16時50分	12時00分～14時00分の間で交替により60分	
	3) 始業 9時00分～終業17時20分	12時30分～15時30分の間で交替により60分	
	4) 始業 9時30分～終業17時50分	13時00分～16時00分の間で交替により60分	
	5) 始業 10時00分～終業18時20分	12時30分～15時30分の間で交替により60分	
	6) 始業 12時50分～終業21時10分	14時30分～17時30分の間で交替により60分	
時差・ 半日勤務	1) 始業 8時00分～終業12時10分		
	2) 始業 8時30分～終業12時40分		
	3) 始業 9時00分～終業13時10分		
	4) 始業 9時30分～終業13時40分		

栄養給食課に勤務する技術職員

**別表 6** 事務室担当者（栄養士）

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日 1) 始業 8時30分～ 終業16時50分	①12時30分～13時30分 ②13時30分～14時30分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	勤務割りは1ヵ月毎に各職員に当該月の4日前までに通知する。
	平日 2) 始業 11時20分～終業19時40分	13時30分～14時30分	
通常・ 半日勤務	土曜日 始業 8時30分～終業12時40分		

**別表 7** 一般食担当者・特別食担当者（栄養士、調理師）

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	1) 始業 6時45分～ 終業15時40分	① 8時10分～8時45分 ②12時30分～13時30分	*勤務割りは1ヵ月毎に各職員に当該月の4日前までに通知する。 *1年間の勤務時間は別表1と同時間とする。
	2) 始業 8時00分～終業16時20分	12時30分～13時30分	
	3) 始業 10時30分～終業18時50分	13時30分～14時30分	
時差・ 半日勤務	1) 始業 6時00分～終業10時45分	8時10分～8時45分	
	2) 始業 6時45分～終業11時30分		

**別表 8** 看護部長室及び外来勤務者（看護婦・准看護婦）

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
通常・ 全日勤務	平日 始業 8 時 00 分～ 終業 16 時 15 分	①12時30分～13時30分 ②13時00分～14時00分 ③13時30分～14時30分 ①～③のいずれかを交替により与える。	
通常・ 半日勤務	土曜日 始業 8 時 00 分～終業 13 時 30 分		

**別表 9** 病棟勤務者（看護婦・准看護婦）

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
交替・ 全日勤務	始業 8 時 00 分～終業 16 時 20 分	①11時00分～12時00分 ②11時30分～12時30分 ③12時30分～13時30分 ①～③のいずれかを交替により与える。	（三交替勤務） 毎月 1 日を起算日とする 1 ヶ月単位の変形労働時間制とする。当該 1 ヶ月を平均し 1 週 40 時間以下の労働時間となるよう当月分の勤務割りを前月 25 日までに定め、各勤務者に通知する。
	1) 始業 7 時 00 分～終業 15 時 20 分 2) 始業 7 時 30 分～終業 15 時 50 分		
	3) 始業 12 時 00 分～終業 20 時 20 分 4) 始業 13 時 00 分～終業 21 時 20 分	①16時30分～17時30分 ②17時30分～18時30分	
	5) 始業 15 時 50 分～終業 23 時 10 分	①又は②のいずれかを交替により与える。	
	6) 始業 23 時 00 分～終業 8 時 20 分	交替により 60 分勤務の中途に与える	
	交替・ 半日勤務	1) 始業 8 時 00 分～終業 12 時 10 分 2) 始業 7 時 00 分～終業 11 時 10 分 3) 始業 7 時 30 分～終業 11 時 40 分	

**別表 10** 中央手術室勤務者（看護婦・准看護婦）

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日 1) 始業 7 時 30 分～終業 15 時 45 分 2) 始業 8 時 00 分～終業 16 時 15 分 3) 始業 8 時 30 分～終業 16 時 45 分 4) 始業 11 時 30 分～終業 19 時 45 分	①11時00分～12時00分 ②11時30分～12時30分 ③12時00分～13時00分 ④13時00分～14時00分 ①～④のいずれかを交替により与える。	勤務割りは 1 ヶ月毎に各職員に前月の 25 日までに通知する。
時差・ 半日勤務	土曜日 1) 始業 8 時 00 分～終業 13 時 30 分 2) 始業 11 時 00 分～終業 16 時 30 分		



**別表11** 中央材料室勤務者（看護婦・准看護婦）

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日	1) 始業8時00分～終業16時15分 2) 始業8時30分～終業16時45分	①11時10分～12時10分 ②12時10分～13時10分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	勤務割りは1ヵ月毎に各職員に前月の25日までに通知する。
通常・ 半日勤務	土曜日	始業8時00分～終業13時30分		

**別表12** 病棟勤務者（看護補助員）

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務		1) 始業7時00分～終業15時20分	①11時00分～12時00分	勤務割りは1ヵ月毎に各職員に前月の25日までに通知する。
		2) 始業8時00分～終業16時20分	②11時30分～12時30分	
3) 始業9時00分～終業17時20分	③12時30分～13時30分			
4) 始業10時00分～終業18時20分	①～③のいずれかを交替により与える。			
5) 始業11時00分～終業19時20分	16時00分～17時00分			
時差・ 半日勤務		1) 始業8時00分～終業12時10分 2) 始業7時30分～終業11時40分		

**別表13** 外来勤務者（看護補助員）

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
通常・ 全日勤務	平日	始業8時00分～ 終業16時15分	①12時30分～13時30分 ②13時00分～14時00分 ③13時30分～14時30分 ①～③のいずれかを交替により与える。	
通常・ 半日勤務	土曜日	始業8時00分～終業13時30分		

**別表14** 中央手術室勤務者（看護補助員）

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日	1) 始業8時00分～終業16時15分	①11時10分～12時10分	勤務割りは1ヵ月毎に各職員に前月の25日までに通知する。
		1) 始業8時30分～終業16時45分	②12時10分～13時10分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	
3) 始業12時00分～終業20時15分	15時10分～16時10分			
通常・ 半日勤務	土曜日	始業8時00分～終業13時30分		

**別表15** 中央材料室勤務者（看護補助員）

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日	1) 始業 8 時 00 分～終業 16 時 15 分 2) 始業 8 時 30 分～終業 16 時 45 分	①11時10分～12時10分 ②12時10分～13時10分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	勤務割りは 1 ヶ月毎に各職員に前月の 25 日までに通知する。
通常・ 半日勤務	土曜日	始業 8 時 00 分～終業 13 時 30 分		

**別表16** 保育室勤務者（看護補助員）

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日	1) 始業 7 時 30 分～終業 15 時 45 分 2) 始業 8 時 00 分～終業 16 時 15 分 3) 始業 8 時 30 分～終業 16 時 45 分 4) 始業 9 時 00 分～終業 17 時 15 分 5) 始業 9 時 30 分～終業 17 時 45 分	①12時00分～13時00分 ②13時00分～14時00分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	勤務割りは 1 ヶ月毎に各職員に前月の 25 日までに通知する。
		6) 始業 15 時 15 分～終業 23 時 30 分	20時00分～21時00分	
時差・ 半日勤務	土曜日	1) 始業 7 時 30 分～終業 13 時 00 分 2) 始業 8 時 00 分～終業 13 時 30 分		

**別表17** 病棟勤務者（保 母）

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
通常・ 全日勤務	平日	始業 8 時 00 分～終業 16 時 15 分	12時00分～13時00分	勤務割りは 1 ヶ月毎に各職員に前月の 25 日までに通知する。
通常・ 半日勤務	土曜日	始業 8 時 00 分～終業 13 時 30 分		

**別表18** 保育室勤務者（保 母）

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日	1) 始業 7 時 30 分～終業 15 時 45 分 2) 始業 8 時 00 分～終業 16 時 15 分 3) 始業 8 時 30 分～終業 16 時 45 分 4) 始業 9 時 00 分～終業 17 時 15 分 5) 始業 9 時 30 分～終業 17 時 45 分	①12時00分～13時00分 ②13時00分～14時00分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	勤務割りは 1 ヶ月毎に各職員に前月の 25 日までに通知する。
		6) 始業 15 時 15 分～終業 23 時 30 分	20時00分～21時00分	
時差・ 半日勤務	土曜日	1) 始業 7 時 30 分～終業 13 時 00 分 2) 始業 8 時 00 分～終業 13 時 30 分		

**別表19 看護助手**

区分等		勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	平日	1) 始業 8 時 00 分～終業 16 時 15 分 2) 始業 8 時 30 分～終業 16 時 45 分	①11時10分～12時10分 ②12時10分～13時10分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	勤務割りは 1 ヶ月毎に各職員に前月の 25 日までに通知する。
通常・ 半日勤務	土曜日	始業 8 時 00 分～終業 13 時 30 分		

**別表20 労務職員（栄養給食課に勤務する者を除く。）**

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
通常・ 全日勤務	始業 8 時 00 分～終業 16 時 10 分	①11時00分～12時00分 ②12時00分～13時00分 ①又は②のいずれかを交替により与える。	
通常・ 半日勤務	始業 8 時 00 分～終業 12 時 10 分		

栄養給食課に勤務する労務職員

**別表21 一般食担当者（栄養士、調理師）**

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	1) 始業 6 時 45 分～終業 15 時 40 分	8 時 10 分～ 8 時 45 分 12 時 30 分～ 13 時 30 分	*勤務割りは 1 ヶ月毎に各職員に当該月の 4 日前までに通知する。 * 1 年間の勤務時間は別表 1 と同時間とする。
	2) 始業 8 時 00 分～終業 16 時 20 分	12 時 30 分～ 13 時 30 分	
	3) 始業 10 時 30 分～終業 18 時 50 分	13 時 30 分～ 14 時 30 分	
時差・ 半日勤務	1) 始業 6 時 00 分～終業 10 時 45 分 2) 始業 6 時 45 分～終業 11 時 30 分	8 時 10 分～ 8 時 45 分	

**別表22 特別食担当者（栄養士、調理師）**

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	1) 始業 6 時 45 分～終業 15 時 40 分	8 時 10 分～ 8 時 45 分 12 時 30 分～ 13 時 30 分	*勤務割りは 1 ヶ月毎に各職員に当該月の 4 日前までに通知する。 * 1 年間の勤務時間は別表 1 と同時間とする。
	2) 始業 8 時 00 分～終業 16 時 20 分	12 時 30 分～ 13 時 30 分	
	3) 始業 10 時 30 分～終業 18 時 50 分	13 時 30 分～ 14 時 30 分	
通常・ 半日勤務	始業 6 時 45 分～終業 11 時 30 分	8 時 10 分～ 8 時 45 分	

別表23 附属看護専門学校清泉寮に勤務する寮母

区分等	勤務時間	休憩時間	備考
時差・ 全日勤務	1) 始業7時00分～終業14時30分 2) 始業14時00分～終業21時30分	12時00分～13時00分 18時00分～19時00分	* 勤務割りは1ヵ月毎に各職員に前月の25日までに通知する。 * 1年間の勤務時間は別表1と同時間とする。

人 事

〔採用〕

助 手	野中隆三郎 (耳鼻咽喉科学)	3. 1	技 術 員	宮尾 守 (放射線科)	4. 1
助 教 授	渡邊 丈眞 (衛生学・公衆衛生学)	4. 1	〃	上林 淳子 (中央検査部)	〃
〃	上田 陽彦 (泌尿器科学)	〃	〃	岡澤有理子 ( 〃 )	〃
助 手	水野 剛夫 (医 化 学)	〃	〃	炭野 久美 (輸 血 室)	〃
〃	平野 博嗣 (病 理 学Ⅱ)	〃	〃	清木 志保 ( 〃 )	〃
〃	辻 洋子 (法 医 学)	〃	〃	西尾なみえ ( 〃 )	〃
〃	高尾雄三郎 (内 科 学Ⅱ)	〃	〃	藤井 康代 ( 〃 )	〃
〃	野村 俊之 ( 〃 )	〃	〃	藤原 祝子 ( 〃 )	〃
〃	徐 信夫 (皮 膚 科 学)	〃	〃	森山 麻美 ( 〃 )	〃
〃	白壁 理志 (産婦人科学)	〃	〃	太田 善行 (リハビリテーション科)	〃
〃	植木 健 (周産期センター)	〃	〃	建内 宏重 ( 〃 )	〃
〃	岩尾 憲明 (附属病院)	〃	〃	大西 靖子 ( 〃 )	〃
事 務 員	塩路 篤 (総務部庶務課)	〃	技 能 員	川崎 建人 (病院事務部施設課 汽缶担当)	〃
〃	下嶋 亜紀 ( 〃 )	〃	技術補助員	服部 英利 (耳鼻咽喉科)	〃
〃	蘆田 晴重 (財務部経理課)	〃	〃	川島 由実 (内 視 鏡 室)	〃
〃	吉田 晶子 (病院事務部管理課)	〃	〃	小橋 りか (中央手術室)	〃
〃	三前 大輔 (病院事務部 医事第1課)	〃	嘱 託	三笠 昭三 (法医学教室)	〃
〃	磯崎 由香 (病院事務部 医事第2課)	〃	〃	宮内 高義 (総務部庶務課)	〃
〃	葛原真由美 ( 〃 )	〃	看 護 婦	生嶋 綾子 (病院看護部)	〃
〃	黒田いづみ (病院薬剤部)	〃	〃	石井 雅子 ( 〃 )	〃
〃	森岡 佳代 ( 〃 )	〃	〃	石川 由実 ( 〃 )	〃
看護事務員	井垣 和美 (病院看護部)	〃	〃	伊藤かずみ ( 〃 )	〃
〃	磯貝 美紀 ( 〃 )	〃	〃	今井真奈美 ( 〃 )	〃
〃	谷口 弘美 ( 〃 )	〃	〃	上田 明美 ( 〃 )	〃
〃	山川 真子 ( 〃 )	〃	〃	上田みほこ ( 〃 )	〃
技 術 員	木村 恭子 (病院事務部 栄養給食課)	〃	〃	榮留 美沙 ( 〃 )	〃
〃	坂口 裕美 ( 〃 )	〃	〃	江崎 麻美 ( 〃 )	〃
〃	藤川麻里子 ( 〃 )	〃	〃	太田 昭子 ( 〃 )	〃
〃	南野百合子 ( 〃 )	〃	〃	太田千佳世 ( 〃 )	〃
			〃	大谷 里美 ( 〃 )	〃
			〃	大西由美子 ( 〃 )	〃



看護婦	岡 春奈 (病院看護部)	4. 1	看護婦	橋本 真紀 (病院看護部)	4. 1
〃	岡 舞 ( 〃 )	〃	〃	秦 涼子 ( 〃 )	〃
〃	沖野希美子 ( 〃 )	〃	〃	濱 容子 ( 〃 )	〃
〃	小野奈緒子 ( 〃 )	〃	〃	濱地加代子 ( 〃 )	〃
〃	小畑 里絵 ( 〃 )	〃	〃	林 順子 ( 〃 )	〃
〃	甲斐 志乃 ( 〃 )	〃	〃	久積 りえ ( 〃 )	〃
〃	柏木麻衣子 ( 〃 )	〃	〃	日高由美子 ( 〃 )	〃
〃	神尾 良子 ( 〃 )	〃	〃	廣瀬 晶子 ( 〃 )	〃
〃	河野あゆみ ( 〃 )	〃	〃	廣瀬和香子 ( 〃 )	〃
〃	神原 美保 ( 〃 )	〃	〃	藤原 恵美 ( 〃 )	〃
〃	清原 幸恵 ( 〃 )	〃	〃	堀 摩季子 ( 〃 )	〃
〃	小林美香子 ( 〃 )	〃	〃	前川 知美 ( 〃 )	〃
〃	小松 美紀 ( 〃 )	〃	〃	松下由貴子 ( 〃 )	〃
〃	齋藤 由美 ( 〃 )	〃	〃	松富 玲子 ( 〃 )	〃
〃	崎園ゆかり ( 〃 )	〃	〃	松本 孝子 ( 〃 )	〃
〃	佐藤久美子 ( 〃 )	〃	〃	拙 由美 ( 〃 )	〃
〃	澤井 知子 ( 〃 )	〃	〃	南 奈津子 ( 〃 )	〃
〃	椎野 優子 ( 〃 )	〃	〃	宮内 香織 ( 〃 )	〃
〃	鳥尾 珠美 ( 〃 )	〃	〃	村上かおり ( 〃 )	〃
〃	嶋田 愛 ( 〃 )	〃	〃	村島みよ子 ( 〃 )	〃
〃	嶋田多津代 ( 〃 )	〃	〃	望月 淳子 ( 〃 )	〃
〃	高尾 涼子 ( 〃 )	〃	〃	森 愛子 ( 〃 )	〃
〃	高木 和子 ( 〃 )	〃	〃	柳井 千秋 ( 〃 )	〃
〃	高瀬 亜紀 ( 〃 )	〃	〃	柳本 香織 ( 〃 )	〃
〃	高戸 敬子 ( 〃 )	〃	〃	山下 公子 ( 〃 )	〃
〃	高橋 稚代 ( 〃 )	〃	〃	山下 千秋 ( 〃 )	〃
〃	高山 祐子 ( 〃 )	〃	〃	山下 陽子 ( 〃 )	〃
〃	竹川 秀子 ( 〃 )	〃	〃	山下 淑子 ( 〃 )	〃
〃	田村 恵美 ( 〃 )	〃	〃	山田 晃子 ( 〃 )	〃
〃	辻 香織 ( 〃 )	〃	〃	山根 美穂 ( 〃 )	〃
〃	土屋 理恵 ( 〃 )	〃	〃	吉崎 聡子 ( 〃 )	〃
〃	時本 幸世 ( 〃 )	〃	〃	吉田 佳織 ( 〃 )	〃
〃	長嶧美奈子 ( 〃 )	〃	〃	和田 節子 ( 〃 )	〃
〃	長瀬知恵子 ( 〃 )	〃	〃	渡邊 彩子 ( 〃 )	〃
〃	中野 睦美 ( 〃 )	〃	看護士	岡島 圭一 ( 〃 )	〃
〃	中平 順子 ( 〃 )	〃	准看護婦	清田 紗織 ( 〃 )	〃
〃	名村 純子 ( 〃 )	〃	〃	前田 美貴 ( 〃 )	〃
〃	南光かおり ( 〃 )	〃	看護補助員	井川 敦子 ( 〃 )	〃
〃	西 あかね ( 〃 )	〃	保 母	大坪 裕之 ( 〃 )	〃
〃	西下 由紀 ( 〃 )	〃	〃	加納 淳生 ( 〃 )	〃
〃	野田真由美 ( 〃 )	〃	看護婦	清水 由香 ( 〃 )	4.16
〃	野村 綾子 ( 〃 )	〃	助 手	堺 潤 (神経精神医学)	5. 1
〃	野村 恵子 ( 〃 )	〃	〃	田中 斉 (耳鼻咽喉科学)	〃
			〃	神田 宏治 (産婦人科学)	〃

〔退職〕

看護婦	石橋亜希子 (病院看護部)	2.15	看護婦	根本 純子 (病院看護部)	3.31
助手	藤原 裕樹 (耳鼻咽喉科学)	2.28	〃	磯崎美津恵 ( 〃 )	〃
看護婦	藤井 真紀 (病院看護部)	〃	〃	朝倉眞理子 ( 〃 )	〃
看護事務員	豊留 美穂 ( 〃 )	3.15	〃	山中由紀子 ( 〃 )	〃
診療教授	渡邊 千舟 (眼 科 学)	3.31	〃	小嶋登紀子 ( 〃 )	〃
助 教 授	久保川 学 (生 理 学Ⅱ)	〃	〃	福井 ゆか ( 〃 )	〃
〃	高崎 登 (泌尿器科学)	〃	〃	田畑 享子 ( 〃 )	〃
講 師	小田 幸作 (病 理 学Ⅰ)	〃	〃	石川 直美 ( 〃 )	〃
〃	浅田 修二 (内 科 学Ⅱ)	〃	〃	小川貴美子 ( 〃 )	〃
学内講師	松本 章夫 ( 〃 )	〃	〃	中大路真輝 ( 〃 )	〃
助 手	伊藤 奏 (泌尿器科学)	〃	〃	野島 由美 ( 〃 )	〃
〃	赤松 順 (形成外科学)	〃	〃	北野貴美子 ( 〃 )	〃
専任教員	井上 悦子 (附属看護専門学校 第二看護学科)	〃	〃	木元 順子 ( 〃 )	〃
事務局次長兼 病院事務部長 兼管理部長	常川 治男 (事 務 局)	〃	〃	黒田 薫 ( 〃 )	〃
事務局次長兼 病院薬剤部長	古家 鞆弘 (事 務 局)	〃	〃	西山 智代 ( 〃 )	〃
看護事務員	片山 文子 (病院看護部)	〃	〃	小脇美記子 ( 〃 )	〃
技 術 員	村田 晴菜 (放 射 線 科)	〃	〃	吉田 康子 ( 〃 )	〃
技 師 長	小田 省三 (リハビリテーション科)	〃	〃	玉田 順子 ( 〃 )	〃
技 術 員	江湖 聡 ( 〃 )	〃	〃	山中富美子 ( 〃 )	〃
〃	田邊 康二 ( 〃 )	〃	〃	岡崎 光恵 ( 〃 )	〃
〃	白井 由美 ( 〃 )	〃	〃	木村 美佳 ( 〃 )	〃
〃	本射三重子 (中央検査部)	〃	〃	森 美保 ( 〃 )	〃
技術補助員	島田 幸枝 (中央手術室)	〃	〃	磯貝 典子 ( 〃 )	〃
技 能 員	山中 玲子 (総務部庶務課 電話交換室)	〃	〃	岡田 美紀 ( 〃 )	〃
〃	吉田 宏 (病院事務部施設課 汽 缶 担 当)	〃	〃	今浪 美子 ( 〃 )	〃
車 輛 長	牧谷 魁司 (総務部庶務課 車 輛 室)	〃	〃	川上 広美 ( 〃 )	〃
看護婦長	大川真紀子 (病院看護部)	〃	〃	高橋美奈子 ( 〃 )	〃
看護婦主任	川上 千春 ( 〃 )	〃	〃	西村 留美 ( 〃 )	〃
〃	福岡 珠美 ( 〃 )	〃	〃	松田 恵美 ( 〃 )	〃
〃	田中 恵 ( 〃 )	〃	〃	山下 久美 ( 〃 )	〃
〃	櫛原 玲子 ( 〃 )	〃	〃	高橋かおり ( 〃 )	〃
臨床指導者代理	小柴 緑 ( 〃 )	〃	〃	井上かおり ( 〃 )	〃
看 護 婦	浦谷 恵 ( 〃 )	〃	〃	砂田 文 ( 〃 )	〃
〃	網野 泉 ( 〃 )	〃	〃	大石 勝子 ( 〃 )	〃
〃	櫻井かおり ( 〃 )	〃	〃	能勢 寛子 ( 〃 )	〃
〃	田中由紀子 ( 〃 )	〃	〃	今中 由佳 ( 〃 )	〃
〃	大原 美佳 ( 〃 )	〃	〃	波江野寧子 ( 〃 )	〃
〃	谷口 真弓 ( 〃 )	〃	〃	北川 紀子 ( 〃 )	〃
			〃	澤田 真代 ( 〃 )	〃
			〃	瀧 貴子 ( 〃 )	〃
			〃	橋本 優子 ( 〃 )	〃
			〃	三浦 香澄 ( 〃 )	〃
			〃	米倉 美穂 ( 〃 )	〃

看護婦	大石 千夏 (病院看護部)	3.31	病院薬剤部長 兼薬剤課長	伊藤 博 (病院薬剤部部長) 代理兼薬剤課長	4. 1
〃	河野ちずる (〃)	〃	病院事務部長代理 兼用度課長	橋口 直栄 (総務部庶務課長)	〃
〃	田中 宏美 (〃)	〃	総務部 庶務課長	成松 正治 (総務部教務) 課長代理	〃
〃	重見 理恵 (〃)	〃	図書館課長	茂幾 周治 (図書館) 課長代理	〃
〃	新垣さおり (〃)	〃	病院看護部 看護婦長	坪内 操 (看護婦長代理)	〃
〃	村木 美栄 (〃)	〃	病院看護部 看護婦主任	廣松 安子 (看護婦主任代理)	〃
〃	酒匂 美香 (〃)	〃	病院看護部 看護婦主任代理	内田 和栄 (看護婦)	〃
〃	矢鳴 輝恵 (〃)	〃	〃	小谷 英子 (〃)	〃
〃	前川 絵美 (〃)	〃	病院看護部 臨床指導者	寺岡由佳里 (臨床指導者代理)	〃
〃	奥村由希子 (〃)	〃	〃	原 葉子 (〃)	〃
〃	西村 麻紀 (〃)	〃	〃	志船 美香 (〃)	〃
〃	末永 智子 (〃)	〃	〃	玉井 千晶 (〃)	〃
〃	末永 智子 (〃)	〃	〃	福田 政恵 (〃)	〃
〃	渡邊 由香 (〃)	〃	病院看護部 臨床指導者代理	小又真有美 (看護婦)	〃
〃	濱口 早苗 (〃)	〃	〃	村上 操 (保育室主任代理)	〃
〃	河野あずさ (〃)	〃	附属看護専門学校 教務主任補佐	三輪田隆子 (附属看護専門) 学校専任教員	〃
〃	海戸 徳子 (〃)	〃	附属看護専門学校 専任教員	須藤 葵 (病院看護部) 看護婦	〃
看護士	遠藤 篤也 (〃)	〃	生理学 助 教授	吉田龍太郎 (講 師)	4.16
短時間雇用職員	湯浅 佳子 (〃)	〃	内科学 講 師	田中 雅也 (学内講師)	〃
准看護婦	奥山恭仁子 (〃)	〃	病院薬剤部 部長代理	足立 憲彦 (病院薬剤部) 薬品管理課長	5. 1
〃	中本富美子 (〃)	〃	病院薬剤部 薬務管理課長	竹村喜一郎 (病院薬剤部) 薬務管理課長代理	〃
看護補助員	上坂 美春 (〃)	〃	病院薬剤部 薬品管理課長	秋田 菊代 (病院薬剤部) 薬品管理課長代理	〃
保 母	宮蘭美津代 (病院看護部)	〃	リハビリテーション 科 技 師 長	館谷 昭治 (リハビリテーション科) 技師長代理	〃
用 務 員	中路フミコ (病院事務部 用度課洗濯室)	〃	病院薬剤部 薬剤課長代理	安藤 陽子 (病院薬剤部) 薬剤課長補佐	〃
〃	加門 善治 (病院看護部)	〃	中央検査部 技師長代理	村上 澄子 (病院中央検査部) 技師長補佐	〃
看護事務員	清水 瞳 (〃)	4. 6	リハビリテーション 科 技 師 長 代理	八幡 元清 (リハビリテーション科) 技師長補佐	〃
技 術 員	炭野 久美 (輸 血 室)	4.15	病院薬剤部 薬務管理課長補佐	傍島 悦子 (病院薬剤部) 薬務管理課主任	〃
保 母	西田美恵子 (病院看護部)	〃	病院事務部長 兼給食課長補佐	森本真佐子 (病院事務部長兼) 給食課長補佐	〃
助 手	金原 裕則 (泌尿器科学)	〃	〃	〃	〃
〃	大日向由光 (耳鼻咽喉科学)	4.30	〃	〃	〃
〃	竹原 幹雄 (産婦人科学)	〃	〃	〃	〃
事 務 員	竹中 美保 (病院事務部 用 度 課)	〃	〃	〃	〃
技 術 員	橋本 宮男 (放 射 線 科)	〃	〃	〃	〃
看 護 婦	池田美佐代 (病院看護部)	〃	〃	〃	〃
〔昇 任〕					
整形外科 講 師	中島 幹雄 (学内講師)	2. 1	〃	〃	〃
微生物学 助 教授	森松 伸一 (講 師)	2.16	〃	〃	〃
病理学講師	江頭由太郎 (助 手)	4. 1	〃	〃	〃
中央検査部 講 師	福西 恵一 (〃)	〃	〃	〃	〃
病院事務部長 兼管理課長	平野 勝 (病院事務部長代) 理兼用度課長	〃	〃	〃	〃

放射線科 技師長補佐	岡山 勝良 (病院放射線科 技術主任)	5. 1
〃	濱田 松治 ( 〃 )	〃
中央検査部 技師長補佐	佐竹まさ子 (病院中央検査部 臨床化学検査技術主任)	〃
〃	竹内 淑恵 (病院中央検査部 生理検査技術主任)	〃
病院事務部栄養 給食課調理主任	山本シヅ子 (病院事務部栄養給食課 技能員 (調理師))	〃
放射線科 技術主任	青木 明 (放射線科技術員 (診療放射線技師))	〃
〃	谷内 一夫 ( 〃 )	〃
〃	延原美津子 (放射線科技術員)	〃
中央検査部 技術主任	上田 一仁 (中央検査部技術員 (臨床検査技師))	〃
〃	筒井 裕一 ( 〃 )	〃
〃	長谷川美登里 (中央検査部技術員 (臨床検査技師))	〃
〃	竹内 忍 (中央検査技術員)	〃
リハビリテーシ ョン科技術主任	櫛辺 勇 (リハビリテーション科 技術員 (作業療法士))	〃
〃	樋口加津子 ( 〃 )	〃
口腔外科 技術主任	松井 暁美 (口腔外科技術員)	〃
人工腎臓センタ ー技術主任	稲田 次男 (人工腎臓センタ ー技術員 (臨床工学技士))	〃
<b>〔異 動〕</b>		
内科学Ⅱ 助 手	長谷川 稔 (附属病院)	4. 1
整形外科 助 手	神原 清人 (解剖学Ⅱ)	〃
病院事務部 用度課 事務員	奥田貴美子 (病院事務部 栄養給食課 事務員)	
総務部庶務課 車輛主任	山中 正道 (病院事務部 管理課 車輛主任)	
<b>〔兼 担〕</b>		
病理学講師	福西 恵一 (中央検査部講師)	
<b>〔休職・復職〕</b>		
<b>(休 職)</b>		
助 教 授	田中 嘉雄 (形成外科学)	2. 1
〃	岡田 仁克 (病理学Ⅱ)	3. 1
学内講師	高畑 龍一 (神経精神医学)	4. 1
看 護 婦	神原 美保 (病院看護部)	〃

講 師	山口 淳 (リハビリテーション科)	4.23
<b>(復 職)</b>		
助 教 授	田中 嘉雄 (形成外科学)	2. 9
〃	岡田 仁克 (病理学Ⅱ)	3.20
助 手	和辻 利和 (泌尿器科学)	4. 1
〃	喜多野郁夫 (生理学Ⅱ)	4. 6
<b>〔委嘱・解嘱〕</b>		
<b>(委 嘱)</b>		
<b>附属病院長</b>		
教 授	佐々木進次郎 (胸部外科学)	4. 1
<b>附属病院副院長</b>		
教 授	清水 章 (病態検査学)	4. 1
<b>図書館長</b>		
教 授	清金 公裕 (皮膚科学)	4. 1
<b>リハビリテーション科部長</b>		
教 授	阿部 宗昭 (整形外科)	4. 1
<b>主任健康管理医兼主任衛生管理者</b>		
講 師	北岡 治子 (内科学Ⅰ)	4. 1
<b>健康管理医兼衛生管理者</b>		
学内講師	関 庚煒 (内科学Ⅰ)	4. 1
<b>学内講師</b>		
助 手	金 明博 (整形外科)	2.16
〃	高尾雄二郎 (内科学Ⅱ)	4. 1
〃	猪木 千春 (産婦人科学)	〃
〃	亀谷 英輝 ( 〃 )	〃
〃	中川 憲 (内科学Ⅱ)	4.16
〃	三宅 宗典 (小児科学)	〃
<b>教員人事に関する事項の検討委員会委員</b>		
教 授	千原精志郎 (心理学)	2. 4
〃	古谷 榮助 (化学)	〃
〃	森 浩志 (病理学Ⅱ)	〃
〃	佐野 浩一 (微生物学)	〃
〃	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃
〃	田嶋 定夫 (形成外科学)	〃
<b>同上委員長</b>		
教 授	森 浩志 (病理学Ⅱ)	2.26
<b>学長予定者選考規程改正委員会委員</b>		
教 授	森 浩志 (病理学Ⅱ)	2. 4
助 教 授	木下 光雄 (整形外科)	〃
講 師	小西 正良 (解剖学Ⅱ)	〃
助 手	辰巳 智章 (放射線医学)	〃
講 師	後藤 俊幸 (微生物学)	2.16



<b>学長予定者選考規程改正委員会委員長</b>					
教 授	大槻 勝紀(解剖学Ⅰ)	4. 2	教 授	谷川 允彦(一般・消化器外科学)	4.14
<b>盛学術振興基金運営委員会委員会委員</b>			〃	太田 富雄(脳神経外科学)	〃
教 授	谷川 允彦(一般・消化器外科学)	3.18	〃	森 秀麿(麻酔科学)	〃
<b>大阪医科大学整備・充実事業推進委員会会長</b>			〃	阿部 宗昭(整形外科学)	〃
理 事 長	田中 忠彌	4.14	〃	清金 公裕(皮膚科学)	〃
<b>同上副会長</b>			〃	勝岡 洋治(泌尿器科学)	〃
学 長	藤本 守	4.14	〃	竹中 洋(耳鼻咽喉科学)	〃
<b>同上相談役</b>			〃	植林 勇(放射線医学)	〃
監 事	上田 次郎	4.14	〃	植木 實(産婦人科学)	〃
常任監事	國澤 隆雄	〃	〃	鳥原 政司(口腔外科学)	〃
<b>同上委員</b>			〃	清水 章(病態検査学)	〃
理 事	美濃 眞	4.14	〃	田嶋 定夫(形成外科学)	〃
〃	藤本 正三	〃	診療教授	陰山 克(内科学Ⅱ)	〃
〃	平井 博	〃	〃	堤 啓(中央検査部)	〃
〃	佐藤 博之	〃	〃	福田 市藏(内科学Ⅰ)	〃
〃	吉田 康久	〃	〃	牧本 一男(耳鼻咽喉科学)	〃
〃	原 亮多	〃	事務局長	多田 數義(事務局)	〃
理事・附属病院長	佐々木進次郎(胸部外科学)	〃	事務局次長	勢川瑠美子( 〃 )	〃
教 授			兼看護部長		
理 事	東 郁郎(眼科学)	〃	病院事務部長	平野 勝(病院事務局)	〃
附屬看護専門学校校長			病院薬剤部長	伊藤 博(病院薬剤部)	〃
教 授	矢次 正利(哲学)	〃	<b>新総合棟(7号館)建築計画推進委員会委員長</b>		
〃	千原精志郎(心理学)	〃	教 授	植林 勇(放射線医学)	4.14
〃	田中 正寛(物理学)	〃	<b>同上委員</b>		
〃	古谷 榮助(化学)	〃	教 授	植木 實(産婦人科学)	4.14
〃	岩崎 尚彦(生物学)	〃	〃	阿部 宗昭(整形外科学)	〃
〃	土井 一宏(英語)	〃	〃	勝岡 洋治(泌尿器科学)	〃
〃	山崎 隆司(ドイツ語)	〃	〃	竹中 洋(耳鼻咽喉科学)	〃
〃	大槻 勝紀(解剖学Ⅰ)	〃	〃	玉井 浩(小児科学)	〃
〃	鳥田 眞久(解剖学Ⅱ)	〃	事務局次長	勢川瑠美子(事務局)	〃
〃	今井 雄介(生理学Ⅰ)	〃	兼看護部長		
〃	窪田 隆裕(生理学Ⅱ)	〃	病院事務部長	平野 勝(病院事務局)	〃
〃	鏡山 博行(医化学)	〃	病院薬剤部長	伊藤 博(病院薬剤部)	〃
〃	宮崎 瑞夫(薬理学)	〃	<b>基金設置委員会委員長</b>		
〃	芝山 雄老(病理学Ⅰ)	〃	教 授	植木 實(産婦人科学)	4.14
〃	森 浩志(病理学Ⅱ)	〃	<b>同上委員</b>		
〃	佐野 浩一(微生物学)	〃	教 授	大槻 勝紀(解剖学Ⅰ)	4.14
〃	河野 公一(衛生学・公衆衛生学)	〃	〃	河野 公一(衛生学・公衆衛生学)	〃
〃	鈴木 廣一(法医学)	〃	〃	竹中 洋(耳鼻咽喉科学)	〃
〃	大澤 仲昭(内科学Ⅰ)	〃	〃	玉井 浩(小児科学)	〃
〃	勝 健一(内科学Ⅱ)	〃	〃	米田 博(神経精神医学)	〃
〃	河村慧四郎(内科学Ⅲ)	〃	助 教 授	高松 順太(内科学Ⅰ)	〃
〃	米田 博(神経精神医学)	〃	事務局長	多田 數義(事務局)	〃
〃	玉井 浩(小児科学)	〃	事務局次長	勢川瑠美子( 〃 )	〃
			兼看護部長		

病院事務部長	平野 勝 (病院事務部)	4.14	教 授	大槻 勝紀 (解剖学 I)	4. 1
病院薬剤部長	伊藤 博 (病院薬剤部)	〃	〃	古谷 榮助 (化 学)	〃
課長補佐	大槻 哲彦 (財務部 経 理 課)	〃	〃	河野 公一 (衛生学・公衆衛生学)	〃
			〃	鈴木 廣一 (法 医学)	〃
			〃	大澤 仲昭 (内科学 I)	〃
<b>倫理委員会委員</b>			講師(非常勤)	高島 学司 (法 医学)	〃
教 授	山崎 隆司 (ドイツ語)	4. 1	課 長	成松 正治 (総務部庶務課)	〃
〃	芝山 雄老 (病理学 I)	〃	<b>同上委員長</b>		
〃	佐野 浩一 (微生物学)	〃	教 授	鈴木 廣一 (法 医学)	4.20
〃	鈴木 廣一 (法 医学)	〃	<b>同上副委員長</b>		
〃	佐々木進次郎 (胸部外科学)	〃	教 授	大槻 勝紀 (解剖学 I)	4.20
〃	清金 公裕 (皮膚科学)	〃	<b>図書館運営委員会委員</b>		
〃	楢林 勇 (放射線医学)	〃	図書館長	清金 公裕 (皮膚科学)	4. 1
龍谷大学 教 授	平野 武	〃	教 授	大槻 勝紀 (解剖学 I)	〃
<b>同上委員長</b>			〃	窪田 隆裕 (生理学 II)	〃
教 授	清金 公裕 (皮膚科学)	4. 1	〃	芝山 雄老 (病理学 I)	〃
<b>同上副委員長</b>			〃	鈴木 廣一 (法 医学)	〃
教 授	鈴木 廣一 (法 医学)	4. 1	〃	玉井 浩 (小児科学)	〃
<b>平成10年度同和教育推進委員会委員</b>			〃	植木 實 (産婦人科学)	〃
教 授	田中 正寛 (物理学)	4. 1	診療教授	陰山 克 (内科学 II)	〃
〃	佐野 浩一 (微生物学)	〃	助 教授	西村保一郎 (数 学)	〃
〃	米田 博 (神経精神医学)	〃	〃	田中 英高 (小児科学)	〃
助 教授	和田 明 (物理学)	〃	〃	長澤 史朗 (脳神経外科学)	〃
診療助教授	瀬本 喜啓 (整形外科学)	〃	図書館長代理	茂幾 周治 (図書館)	〃
講 師	伊藤 裕子 (解剖学 I)	〃	司 書	崔 照子 ( 〃 )	〃
学内講師	森田智津子 (微生物学)	〃	〃	松本 玲子 ( 〃 )	〃
助 手	前島 精治 (皮膚科学)	〃	<b>実験動物センター運営委員会委員</b>		
〃	卞 勝人 (形成外科学)	〃	講 師	吉田龍太郎 (生理学 II)	4. 1
課 長	西田 伸忠 (総務部教務課)	〃	<b>動物実験委員会委員</b>		
課長代理	福島 猛 (医事第二課)	〃	講 師	吉田龍太郎 (生理学 II)	4. 1
<b>同上委員長</b>			<b>放射線安全委員会委員</b>		
教 授	米田 博 (神経精神医学)	4. 1	講 師	北岡 治子 (内科学 I)	4. 1
<b>バイオハザード実験室管理運営委員会委員</b>			課 長	成松 正治 (総務部庶務課)	〃
教 授	大槻 勝紀 (解剖学 I)	4. 1	<b>衛生委員会委員</b>		
〃	佐野 浩一 (微生物学)	〃	講 師	北岡 治子 (内科学 I)	4. 1
〃	鈴木 廣一 (法 医学)	〃	<b>保健管理室運営委員会委員</b>		
〃	玉井 浩 (小児科学)	〃	講 師	北岡 治子 (内科学 I)	4. 1
〃	清水 章 (病態検査学)	〃	課 長	成松 正治 (総務部庶務課)	〃
助 教授	林 秀行 (医 化学)	〃	<b>自己点検・評価組織委員会委員</b>		
講 師	後藤 俊幸 (微生物学)	〃	課 長	成松 正治 (総務部庶務課)	4. 1
<b>同上委員長</b>			<b>治験審査委員会委員</b>		
教 授	佐野 浩一 (微生物学)	4.20	病院薬剤部長	伊藤 博 (病院薬剤部)	4. 1
<b>組換え DNA 実験に関する安全委員会委員</b>			事務局次長 兼看護部長	勢川瑠美子 (事 務 局)	〃
教 授	鏡山 博行 (医 化学)	4. 1			

中村 幸市	4. 1
<b>平成9年・10年度 機器共同利用センター運営委員会委員</b>	
助 教 授 岡田 仁克(病理学Ⅱ)	4. 1
講 師 吉田龍太郎(生理学Ⅱ)	〃
<b>(解 嘱)</b>	
<b>学長予定者選考規程改正委員会委員</b>	
講 師 森松 伸一(微生物学)	2.15
<b>衛生委員会委員</b>	
診療助教授 石原 正(内科学Ⅰ)	3.31
<b>放射線安全委員会委員</b>	
診療助教授 石原 正(内科学Ⅰ)	3.31
課 長 橋口 直栄(総務部庶務課)	〃
<b>保健管理室運営委員会委員</b>	
課 長 橋口 直栄(総務部庶務課)	3.31
<b>自己点検・評価組織委員会委員</b>	
課 長 橋口 直栄(総務部庶務課)	3.31

### 〔海外渡航〕

金 明博(整形外科学助手)	
フランス(パリ)	2. 5 ~ 2.13
小川 竜介(脳神経外科学講師)	
アメリカ(ハワイ)	2.12 ~ 2.21
小畑 仁司(脳神経外科学学内講師)	
アメリカ(ハワイ)	2.12 ~ 2.19
田嶋 定夫(形成外科学教授)	
大場 創介( 〃 助手)	
アメリカ(ハワイ)	2.13 ~ 2.19
牧本 一男(耳鼻咽喉科学診療教授)	
アメリカ(セントピークスバーク)	2. 3 ~ 2.25
林 伊吹(耳鼻咽喉科学助手)	
萩森 伸一( 〃 〃 )	
アメリカ(セントピークスバーク)	2.15 ~ 2.25
相馬 義郎(生理学Ⅰ助手)	
アメリカ(カンザスシティ他)	2.21 ~ 3.11
宮崎 瑞夫(薬理学教授)	
アメリカ(ロサンゼルス他)	2.26 ~ 3. 4
黒岩 敏彦(脳神経外科学講師)	
アメリカ(ボストン)	3. 7 ~ 3.15
谷内 一夫(放射線科技術員(診療放射線技師))	
アメリカ(バーリントン)	3. 7 ~ 3.13
東 治人(泌尿器科学助手)	
アメリカ(ボストン)	3.21 ~ 3.31
滝内比呂也(内科学Ⅱ助手)	
アメリカ(ヒューストン)	3.22 ~ 3.30

岡田 仁克(病理学Ⅱ助教授)	
アメリカ(サンフランシスコ)	4.12 ~ 4.19
立花 秀一(胸部外科学助手)	
アメリカ(ヒューストン)	4.12 ~ 4.20
玉井 浩(小児科学教授)	
森信 孝雄( 〃 助手)	
村田 卓士( 〃 〃 )	
中国(北京)	4.14 ~ 4.18
北岡 治子(内科学Ⅰ講師)	
デンマーク(コペンハーゲン)	4.25 ~ 4.30
<b>(留 学)</b>	
山口 淳(リハビリテーション科講師)	
オーストラリア(シドニー大学)	4.23 ~ 10.22
高畑 龍一(神経精神医学学内講師)	
アメリカ(エール大学)	10.4. 1~10.12.31延長

## 平成10年度 主なる事業計画

平成10年度の主なる事業計画は次のとおりです。  
(事業内容)

### A) 病院オーダリングシステム拡張計画

1. オーダー系システム整備 1式
2. オーダーエントリーシステム第2期計画 1式

3. ネットワーク及び電源配線増設 1式

### B) 病院非常放送及び自動火災報知設備整備工事

### C) 研究診療設備拡充計画

1. 生体分子相互作用分析装置 1式
2. 生体分子精製用システム 1式
3. 新世代走査型レーザー検眼鏡 1式
4. 教育評価支援システム(ハード) 1式
5. 教育評価支援システム(ソフト) 1式
6. 超音波白内障手術装置 1式
7. 三次元画像処理装置 1式
8. 図書館業務システム 1式
9. 心血管撮影装置(心アングロ装置) 1式

### D) 施設改修整備計画

1. 病院西側管理棟1階サービスコーナー設置工事
2. 病院6号館地下排煙設備未整備部改修工事
3. 26病棟特等室浴室洗面所改修工事

## 主要会議とその主な議題

2月1日から4月30日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

### 〔理事会〕

(2月10日)

－審議事項－

1. 寄附金及び学債の発行について
2. 関連事業の実施について

(3月19日)

－審議事項－

1. 平成10年度予算について
2. 寄附金及び学債の発行について
3. 関連事業の実施について

(3月26日)

〔その1〕

－審議事項－

1. 平成10年度予算について
2. 附属病院長委嘱について
3. 評議員の選任について
4. 平成10年度主なる事業計画
5. 学校法人大阪医科大学就業規則の一部改正について

6. 平成10年度定員について

－報告事項－

1. 平成9年度資金収支決算見込報告
1. その他
  - 1) 学長報告
  - 2) 病院長報告
  - 3) 看護専門学校長報告

〔その2〕

－審議事項－

1. 平成10年度予算承認について

(4月14日)

－審議事項－

1. 評議員の選任について
2. 寄附金及び学債の発行について

〔評議員会〕

(3月26日)

－審議事項－

1. 平成10年度予算について
2. 平成10年度主なる事業計画

－報告事項－

1. 平成9年度資金収支決算見込報告

1. その他

- 1) 学長報告
- 2) 病院長報告
- 3) 看護専門学校長報告

〔教授会〕

(2月4日)

1. 人事に関する件（助教授の任用他）
2. 教員人事に関する事項の検討委員会委員の選出に関する件
3. 学長予定者選考規程改正委員会の改選に関する件
4. 卒後研究検討委員会委員の改選に関する件
5. その他

- 1) 放射線安全委員会委員の変更について
- 2) 附属病院長選挙について

(2月20日)

1. 平成10年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件（助教授の任用他）
3. その他
  - 1) 卒後研究検討委員会の存続について
  - 2) 入試制度審議会委員及び倫理委員会委員の改選について
  - 3) 学長予定者選考規程改正委員会委員の委嘱について
  - 4) 学長予定者選考規程改正委員会の中間報告

(3月3日)

1. 平成10年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件（講師の任用他）
3. 功労教授の称号授与に関する件
4. 附属病院長選挙に関する件
5. その他

- 1) 教員人事に関する事項の検討委員会委員長の委嘱について
- 2) 同和教育推進委員会委員の改選について
- 3) 組換えDNA実験に関する安全委員会委員の改選について

(3月18日)

1. 人事に関する件（助教授の任用他）
2. 第1学年学生の復学願出に関する件
3. 第1学年進級合否判定に関する件
4. 図書館長選挙に関する件

5. その他
  - 1) 附属病院次期副院長の推薦について
  - 2) 第1学年学生の退学願出について
  - 3) 図書館合同運営委員会委員の委嘱について
  - 4) バイオハザード実験管理運営委員会委員の改選について
  - 5) 盛記念学術振興基金運営委員会委員の委嘱について
  - 6) 同和教育推進委員会委員の委嘱について
  - 7) 大阪医科大学新GCP取扱いマニュアルについて

(4月2日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 平成10年度入学者決定に関する件
3. 第1学年学生の退学願出に関する件
4. 平成10年度入試に関する委員会委員の改選に関する件

5. その他

- 1) 学長予定者選考規程改正委員会委員長の委嘱について
- 2) 入試制度審議会委員長の委嘱について
- 3) 実験動物センター運営委員会委員及び動物実験委員会委員の変更について
- 4) 保健管理室運営委員会委員の変更について
- 5) 放射線安全委員会委員の変更について
- 6) 兼担発令について
- 7) リハビリテーション科部長の委嘱について

(4月15日)

1. 人事に関する件(学内講師の任用他)
2. 入試に関する委員会委員の改選に関する件
3. その他

- 1) 同和教育推進委員会委員長の委嘱について
- 2) 倫理委員会委員長及び副委員長の委嘱について
- 3) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について
- 4) 治験審査委員会委員の変更について
- 5) 各種委員会委員の変更について

**〔大学院医学研究科委員会〕**

(2月4日)

1. 学位論文受理に関する件

1. 研究生の願出に関する件

(3月3日)

1. 平成10年度大学院入学試験に関する件  
(3月18日)

1. 論文提出者の学位論文審査結果に基づく可否判定に関する件
2. 語学試験委員の改選に関する件
3. 研究生の願出に関する件
4. その他

- 1) 大学院生(第1学年)の退学願出に関する件

(4月2日)

1. 平成10年度大学院入学者決定に関する件
2. その他
- 1) 語学試験委員の改選について

## 主な行事日程表

5月1日から7月31日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- 5月6日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 12日(火) 理事会
- 13日(水) ナイチンゲール生誕祭
- 14日(木) 学位論文受付締切
- 20日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 23日(土) 故山中太木先生を偲ぶ会
- 30日(土) 理事会・評議員会
- 6月3日(水) 医学会春期講習会
- 6日(土) 新入生歓迎会
- 8日(月) 学位論文提出のための語学試験
- 9日(火) 理事会
- 10日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 23日(火) 理事研究会
- 24日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 7月4日(土) 夏期休業(第3・4・5学年)
- 8日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 11日(土) 夏期休業(第1・2学年)
- 14日(火) 理事会
- 17日(金) 夏期休業(看護専門学校)
- 18日(土) 夏期休業(第6学年)
- 22日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 28日(火) 理事研究会



# 平成10年度・収支予算

## 消費収支予算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科目	平成10年度 予算額	平成9年度 予算額	増・減(△)	科目	平成10年度 予算額	平成9年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金	2,455,606	2,234,140	221,466	人件費	12,860,999	12,521,552	339,447
手数料	91,887	68,292	23,595	教育研究経費	13,968,109	13,229,798	738,311
医療収入	22,212,827	20,958,889	1,253,938	管理経費	1,226,760	1,188,396	38,364
寄付金	460,600	490,600	△30,000	借入金等利息	119,105	127,904	△8,799
補助金	2,343,027	2,404,782	△61,755	資産処分差額	27,749	76,348	△48,599
資産運用収入	300,439	284,370	16,069	徴収不能額	5,739	8,000	△2,261
事業収入	410,610	413,000	△2,390	予備費	200,000	300,000	△100,000
雑収入	339,431	355,130	△15,699	消費支出の部合計	28,408,461	27,451,998	956,463
帰属収入合計	28,614,427	27,209,203	1,405,224				
基本金組入額合計	△719,543	△548,777	△170,766				
消費収入の部合計	27,894,884	26,660,426	1,234,458	当年度消費支出超過額	513,577	791,572	

## 資金収支予算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科目	平成10年度 予算額	平成9年度 予算額	増・減(△)	科目	平成10年度 予算額	平成9年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金収入	2,455,606	2,234,140	221,466	人件費支出	12,546,808	12,028,840	517,968
手数料収入	91,887	68,292	23,595	教育研究経費支出管理	12,605,447	11,860,241	745,206
医療収入	22,212,827	20,958,889	1,253,938	管理経費支出	1,125,603	1,087,172	38,431
寄付金収入	430,000	460,000	△30,000	借入金等利息支出	119,105	127,904	△8,799
補助金収入	2,343,027	2,404,782	△61,755	借入金等返済支出	726,850	729,120	△2,270
資産運用収入	300,439	284,370	16,069	施設関係支出	62,046	200,896	△138,850
資産売却収入	1,000,484	0	1,000,484	設備関係支出	760,256	1,229,182	△468,926
事業収入	410,610	413,000	△2,390	資産運用支出	1,122,900	109,874	1,013,026
雑収入	339,431	355,130	△15,699	その他の支出	2,939,125	2,769,677	169,448
借入金等収入	500,000	1,850,000	△1,350,000	予備費	200,000	300,000	△100,000
前受金収入	899,740	823,017	76,723	資金支出調整勘定	△2,847,818	△2,493,931	△353,887
その他収入	4,427,230	4,460,630	△33,400	次年度繰越支払資金	4,430,999	6,002,990	△1,571,991
資金収入調整勘定	△4,700,022	△4,695,401	△4,621				
前年度繰越支払資金	3,080,062	4,335,116	△1,255,054				
収入の部合計	38,791,321	33,951,965	△160,644	支出の部合計	33,791,321	33,951,965	△160,644

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支予算上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

## 平成10年度予算について

本法人の平成10年度予算は評議員会の審議を経て平成10年3月26日開催の理事会において承認決定しました。

過年度決算で教育研究経費・管理経費の増加率は医療収入の増加率を上廻り、帰属収入では人件費や諸経費等の消費支出を賄うことができない極めて厳しい状況の下で、帰属収支差額（帰属収入－消費支出）で赤字を出さないという基本方針を元に編成された予算です。

国及び地方公共団体から経常費の補助を受ける学校法人の会計処理は、文部省令で定める「学校法人会計基準」により行なうこととなっています。この基準では、学校法人の財政状況を学校法人の負債としない収入（帰属収入）と支出（消費支出）の均衡状態を明らかにする「消費収支」と学校法人の教育研究等諸活動に係る全ての収入と支出の内容を明らかにする「資金収支」とで見えるようになっていきます。

以下予算の概略について消費収支を中心に説明いたします。

### 1. 消費収支予算について

#### (1) 主な収入の状況

##### ①「学生生徒等納付金収入」

24億5,560万円。帰属収入に対する構成比率は8.6%となり、前年度予算比では0.4%の微増となります。大学院、看護専門学校の学納金が改定されたこと及び教育充実費の450万円分納が本年度より始まることによります。

##### ②「補助金収入」

23億4,300万円。帰属収入に対する構成比率は8.2%となり、前年度予算比では△2.6%の減少となります。これは研究装置の平成10年度申請予定が無いことによります。

##### ③「資産運用収入」

3億円。テナント料の改定及び債券等による運用益で1,600万円の増加を見込んでいます。

##### ④「医療収入」

222億1,000万円。帰属収入に対する構成比率は77.6%となり、帰属収入中最も大きな収入となっています。10年度予算では、入院病床稼働率を94.5%に目標設定し、外来患者数は平成8年度

の患者数に設定することで前年度予算比12億5,400万円（率にして6%）の増収を見込んでいます。

医療をとりまく環境は、年毎に厳しくなってきましたが、他の医科大学と比較してみると、まだ全学的な取り組みを強化することによって改善される要素は多分にあると考えられます。ちなみに平成9年度においては病床稼働率を93%に目標設定しましたが、残念ながら目標達成は成らなかったものの過去4ヶ年度の平均稼働率87.05%を2.56%上まわる89.6%という過去最高の稼働率となりました。

#### (2) 主な支出の状況

①「人件費」128億6,100万円。人件費伸び率で3.8%の伸びとなり、帰属収入に占める比率は44.9%となっています。

②「教育研究経費」139億6,800万円。大学学部・大学院・看護専門学校の教育研究活動の全般に亘る必要経費です。前年度予算比7億3,800万円の増加となりますが、医療材料費を診療収入予算の40.8%と前年度予算同様に他の私立医科大学の平均まで材料比率を抑えております。ほかに消耗品費、光熱水費、修繕費、委託費で増加します。帰属収入に占める比率は48.8%です。

##### ③「管理経費」

12億2,600万円。前年度予算比で3,800万円の増加となります。

印刷製本費、委託費で増加するとともに、医療収入の伸びにともない健保調整差金が増加します。健保調整差金については医療材料費と同様、他の私立医科大学の平均まで差金率を抑えております。一方消耗品費、リース機器の契約満了にともない賃借費が減少します。帰属収入に占める構成比率は4.29%です。

##### ④「予備費」

前年度予算3億円に対して10年度予算では2億円を計上しております。

### 2. 資金収支予算について

#### ①「資産売却収入」

前年度末に購入しました債券の売却等で10億円を計上しております。

②「借入金収入」

年末賞与引当ての為の5億円を計上しています。前年度計上しました教育充実費補填分借入金13億5,000万円が本年度はありません。

③「施設関係支出」

6,200万円。病院オーダリング関係、新2年生用講義室改修、非常放送自動火災報知器改修第2期半期分、西管理棟1階サービスコーナー設置等が主な事業ですが、前年度予算比で1億3,900万円減少しています。

④「設備関係支出」

7億6,000万円。病院オーダリング関係、附属病院中央機器整備、心臓血管撮影装置のリース等が主な事業ですが、前年度予算比で4億6,900万円減少しています。

3. 消費収支予算の均衡状況

10年度予算での帰属収入は286億1,400万円（前

年度予算比+5.2%）で、消費支出は284億800万円（前年度予算比+3.5%）となり、帰属収支差額は2億600万円となります。また予備費2億円を消費支出から差引きますと4億600万円の帰属収支差額で黒字となる予算です。但し、基本金組入れ後の消費支出超過額は5億1,360万円となり、前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は154億円と消費収支差額については依然として赤字が増大しております。

今後とも教育・研究の環境整備等の為に資金需要はますます増大していくものと考えられます。収支の均衡を図り、財政基盤の安定化の為にはなお一層の効率的な予算管理が必要であると考えます。

（財務部）

平成10年度入学試験及び国家試験状況

平成10年度入学試験状況

	志願者数	受験者数	入学者数
医学部 医学科	人 1,107	人 996	人 100
大学院医学研究科	48	48	45

医師国家試験状況

		新卒	既卒
受験者数	人 123	人 105	人 18
合格者数	115	101	14
合格率	93.5	96.2	77.8

（全国平均 89.6%、私大平均 87.4%）

		志願者数	受験者数	入学者数	
看護専門学校	第一看護学科	一般	人 267	人 219	人 30
		推薦	12	9	9
	第二看護学科	212	187	40	
	計	491	415	79	

看護婦国家試験状況

	受験者数	合格者数	合格率
第一看護学科	人 43	人 39	% 90.7
第二看護学科	48	35	72.9
計	91	74	81.3

（全国平均 83.6%、近畿平均 83.8%）

## 平成9年度 学位記授与

### 〔大学院医学研究科課程修了者〕

大学院医学研究科課程修了による11名の学位論文申請者に対し審査が行なわれました。その結果、全員が合格し、3月25日（水）の学部卒業式と合同で学位記授与式が行われました。

（平成10年3月18日付授与）

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第553号	岡 崎 審	Effect of recombinant FSH combined with hCG on the ovaries of immaturehypophysectomized rats: Endocrinological, light microscopical and immunohistochemical studies (組み替え FSHの幼若下垂体摘除ラット卵巣に及ぼす影響: 内分泌学的、組織学的、並びに免疫組織化学的研究)
甲第554号	加 藤 洋	An improved Method for the Evaluation of the Effects of Laser Irradiation on Cultured Osteoblastic Cells (培養骨芽細胞へのレーザー照射の影響を評価する実験方法の改良)
甲第555号	久 野 友 子	Antioxidant Vitamin Levels in Plasma and Low Density Lipoprotein of Obese Girls (肥満女兒における血中および低比重リポ蛋白中の抗酸化ビタミンの検討)
甲第556号	小 蔦 祥 太	一酸化窒素の眼圧・房水動態に及ぼす影響
甲第557号	酒 井 雅 人	Stimulation of nitric oxide release from rat spinal cord by prostaglandin E <sub>2</sub> (プロスタグランジン E <sub>2</sub> によるラット脊髄スライスからの一酸化窒素の遊離に関する研究)
甲第558号	徐 信 夫	<i>In Vivo</i> microradioautographic study of insulin binding in the skin of normal and NIDDM mice: with special reference to acanthosis nigricans (マイクロラジオオートグラフィーによる正常および NIDDM マウスの皮膚におけるインスリン結合部位についての研究: 特に黒色表皮腫との関連について)
甲第559号	田 淵 耕次郎	<sup>99m</sup> Tc- テクネガスによる肺換気シンチグラフィの臨床的検討
甲第560号	福 井 佳 子	The presence of h2-calponin in human keratinocyte (ヒトケラチノサイトにおける h2-カルボニンの存在)
甲第561号	穂 積 正 俊	Plasma $\beta$ -Carotene, Retinol, and $\alpha$ -Tocopherol Levels in Relation to Glycemic Control of Children with Insulin-Dependent Diabetes Mellitus (インスリン依存性糖尿病児における血漿中 $\beta$ カロテン、レチノール、 $\alpha$ トコフェロール値と糖尿病コントロール指標との関連について)
甲第562号	水 野 剛 夫	cDNA Cloning and Chromosomal Localization of the Human Telencephalin and Its Distinctive Interaction with Lymphocyte Function-associated Antigen-1 (ヒト・テレンセファリンの cDNA クローニング、染色体マッピング及び LFA-1 との相互作用)
甲第563号	村 尾 浩	MRI of anterior cruciate ligament (ACL) tears: Diagnostic value of ACL-tibial plateau (AT) angle (前十字靭帯断裂の MRI: AT 角の診断的価値)

〔論文提出による合格者〕

今回は9名の申請につき所定の審査が行なわれた結果、平成10年3月18日をもって9名全員が合格し、同27日（金）午後2時から学長及び指導教授出席の下、授与式が行われました。

（平成10年3月18日付授与）

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第783号	和 久 幸 子	Prediction of wall motion improvement after coronary revascularization in patients with postmyocardial infarction: Diagnostic value of dobutamine stress echocardiography and myocardial contrast echocardiography (陳旧性心筋梗塞症における血行再建術後の壁運動改善の予測：ドブタミン負荷心エコーと心筋コントラストエコー図法の有用性と問題点)
乙第784号	白 井 久 也	Appropriate Osteotomy Site and Number in Limb Lengthening (脚延長時における骨切りの部位と数に関する研究)
乙第785号	辰 吉 光	上部消化管造影における胃小区の Computed Radiography による検討
乙第786号	今 中 政 支	Cytofluorometric DNA analysis by stathmokinetic method of experimental thyroid neoplasms in rats (実験的ラット甲状腺腫瘍の核 DNA量解析)
乙第787号	平 沢 将 男	Spontaneous myocarditis in DBA/2 mice: Light microscopic study with transmission and X-ray analytical electron microscopic studies (DBA/2 マウスにおける自然発症心筋炎：光学顕微鏡、電子顕微鏡、X線分析電子顕微鏡による心筋の微細構築に関する研究)
乙第788号	野 村 俊 之	高齢者における経皮的胃電図の検討
乙第789号	柏 木 元 実	G 型肝炎ウイルスに対するインターフェロン療法の効果に関する研究
乙第790号	高 原 得 栄	Dysfunction of the <i>Orleans</i> reeler gene arising from exon skipping due to transposition of a full-length copy of an active L1 sequence into the skipped exon (オルレアンリーラー (マウスミュータント) における活性型L1のリリーラー遺伝子へのトランスポジションによる挿入変異)
乙第791号	佐 藤 文 平	増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術の予後影響因子に関する臨床的研究

## 平成10年度 科学研究費補助金内定について

平成9年12月に文部省へ応募した146件の研究計画に対し、本年度は48件、総額6,120万円の内定がありました。

〔研究課題番号順〕

(単位：千円)

研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内 定 額
特定A	終脳特異的樹状突起性細胞接着分子テレンセファリンのシナプス可塑性における役割	医 化 学 助 教 授	吉原良浩	1,500
基盤(B)	心血管組織におけるアンジオテンシンⅡ局所産生機構と病体薬理	薬 理 学 教 授	宮崎端夫	* 400
〃	精神分裂病の同胞対照法によるマイクロサテライトマーカーを用いた分子遺伝学的研究	神 經 精 神 医 学 教 授	米田博	* 1,600
〃	急性前骨髄性白血病治療におけるレチノイン酸薬物動態および耐性機構の研究	小 児 科 学 教 授	玉井浩	2,900
〃	抗癌剤感受性増強と治療係数の上昇へ向けた遺伝子治療研究	一般・消化器外科学 教 授	谷川允彦	3,200
〃	水頭症治療における最適なシャントシステム特性の解明	脳 神 經 外 科 学 学 内 講 師	梶本宜永	5,100
〃 (展開)	質量分析によるグリコヘモグロビンの標準定量法の確立と実用化	病 態 検 査 学 教 授	清水章	* 3,000
〃	発生工学的手法による機能的神経回路網可視化技術の開発とその応用	医 化 学 助 教 授	吉原良浩	7,500
基盤(C)	筋萎縮性側索硬化症における神経組織カルシウム・チャンネルのリガンド結合動態	第 1 内 科 学 第 助	古玉大介	* 400
〃	C型肝炎ウイルス感染に伴う低温補体活性化とクリオグロブリン形成の機構の解明	病 態 検 査 学 教 授	清水章	* 500
〃	高次元複素力学系の研究	数 助 教 授	西村保一郎	* 500
〃	電顕的 in situ ハイブリダイゼーションによるウィル核酸同定法の確立	微 生 物 学 講 師	後藤俊幸	* 1,000
〃	低濃度フッ化物の腎機能への影響に関する研究(加齢に伴う腎機能低下との相互影響)	衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学 教 授	河野公一	* 600
〃	A B O式血液型遺伝子領域における遺伝的組換え現象の解析	法 医 学 教 授	鈴木廣一	* 700
〃	各種炎症性サイトカインの Core2 糖転移酵素に及ぼす影響	第 2 内 科 学 第 助	前村憲太郎	* 800
〃	肺がん個別検診が対象地域の肺がん患者の予後に与える効果に関する検討	第 1 内 科 学 第 助	福田泰樹	* 300
〃	心筋炎の心筋細胞内ウイルス核酸の発現とアポトーシスに関する分子病理学的研究	第 3 内 科 学 第 助	浮村聡	* 300
〃	小児中枢神経感染症の臨床・免疫学的研究・神経学的後遺症発生機序の解明へ向けて	小 児 科 学 学 内 講 師	鈴木周平	* 500
〃	神経芽腫における A T R A による trk A 遺伝子転写産物の発現と分化誘導に関する研究	小 児 科 学 助	三宅宗典	* 500
〃	仮骨延長法における骨形成促進のための低出力レーザー利用	整 形 外 科 学 助	白井久也	1,000

研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内 定 額
基盤 (C)	唾液線腫瘍における遺伝子異常と Telomerase 活性の解析	耳鼻咽喉科学 講師	山本雄三	* 500
〃	ヘリカル CT-Toothpix による下顎骨と下顎智歯との関係に関する研究	口腔外科学 教授	島原政司	* 200
〃	移植片拒絶反応のメカニズム：自己-非自己の認識と非自己傷害機構の分子生物学的研究	第 2 生理 学教授	吉田龍太郎	1,300
〃	インゲンマメ葉枕細胞の青色光誘導脱分極機構のバッククランプ法による解析	生 物 学手	岡崎芳次	1,400
〃	S T R 多型マーカーに見られた de novo 変異の塩基配列解析	法 医 学手	田村明敬	900
〃	心筋症・心筋炎患者およびトランスジェニックマウス心筋炎の心筋内ウイルス核酸発現機構	第 3 内 科 学師	出口寛文	1,900
〃	拡張型心筋症における慢性心筋炎の成因論的意義に関する研究：左室縮小形成術時切除心筋における炎症性細胞浸潤、ウイルスゲノム、アポトーシスの解析	第 3 内 科 学手	寺崎文生	1,000
〃	皮膚間葉系悪性腫瘍における抗癌剤耐性機序の解析とその克服の検討	皮 膚 科 学教授	草壁秀成	1,200
〃	In situ hybridization 法を用いた遺伝的脊柱変形ウサギの検討	整 形 外 科 学手	金 明博	1,700
〃	腹膜原発漿液性腺癌および卵巣癌の発育進展におけるアポトーシスと腫瘍内血管新生	産 婦 人 科 学教授	植木 實	1,600
〃	皮弁移植におけるスルファチドの効果と作用機序に関する実験的研究	形 成 外 科 学手	赤松 順	1,200
〃	GPI-アンカー型補体制御因子 (CD59) のシグナル伝達機構：二量体形成の意義	病 態 検 査 学内・講 学師	畑中道代	2,000
萌 芽	金被覆マイクロキャピラリー LC 装着質量分析による癌特異ペプチドの超高感度構造決定	病 態 検 査 学師	中西豊文	* 500
〃	内分泌細胞の機能亢進と腫瘍化における caveolin の役割	第 2 病 理 学師	前田 環	800
〃	神経疾患の原因となる変異蛋白質の質量分析による検出と構造決定および新診断法の確立	病 態 検 査 学手	岸川匡彦	800
奨励 A	小児遺伝性無顆粒球症 (コストマン症候群) における G-CSF レセプター遺伝子の解析	小 児 科 学手	芦田 明	* 800
〃	非定型精神病候補遺伝子の分子遺伝学的研究	神 經 精 神 医 学手	康 純	* 700
〃	同種皮弁移植における細胞間密着分子の制御と FTY720 による免疫寛容誘導	形 成 外 科 学師	上田晃一	* 900
〃	腎移植慢性拒否反応の発症メカニズムとその治療：HGF は初の治療薬	泌 尿 器 科 学手	東 治人	* 500
〃	ノックアウトマウスを用いたプロスタグランジンによるアロディニアの発現機構の解明	麻 酔 科 学手	南 敏明	* 900
〃	神経系特異的新規細胞接着分子 OCAM の構造・発現・機能解析	医 助 化 教 学教授	吉原良浩	* 900
〃	12-リポキシゲナーゼの血圧に対する病態生理学的役割の解明	薬 理 学内 講 学師	高井真司	1,000
〃	熱ショック蛋白と心臓性突然死：死因としてのストレス応答異常機構の解析	法 医 学手	西尾 元	800



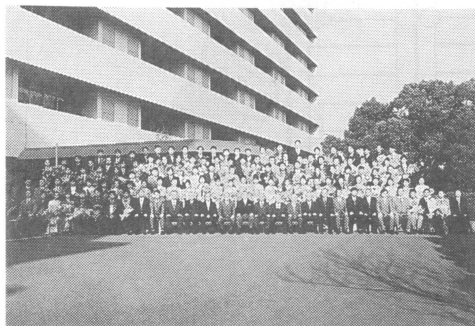
研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内 定 額
奨励A	分子遺伝学的手法を用いたパニックディスオーダーの成 因解明	神 經 精 神 医 学 助 手	稲 田 泰 之	900
〃	ノシセプチンによるアロディニアの発現機構の解明	麻 酔 科 学 助 手	原 直 樹	1,000
〃	Yeast functional assay による膀胱癌における p53 変 異の検討	泌 尿 器 科 学 助 手	山 本 貞 久	900
〃	異常ヘモグロビン症診断のルーチン化のための新技術の 開発	病 態 検 査 学 助 手	宮 崎 彩 子	1,400
〃	定向性進化の原理を利用したアミノ基転移酵素の基質特 異性の変換	医 化 講 師	矢 野 貴 人	1,200
合 計	48件			61,200

\*印は前年度以前からの継続分

## 平成9年度卒業証書・学位記授与式

医学部医学科および大学院医学研究科の卒業証書・学位記授与式が快晴の空の下、グルジア・トビリシ大学研修生を招待し、3月25日（水）午後2時から臨床第1講堂において挙行されました。

- ・ 医学部医学科卒業生（第47回） 105名
- ・ 大学院医学研究科修了生 11名



医学部医学科卒業生一同



医学（博士）学位記授与

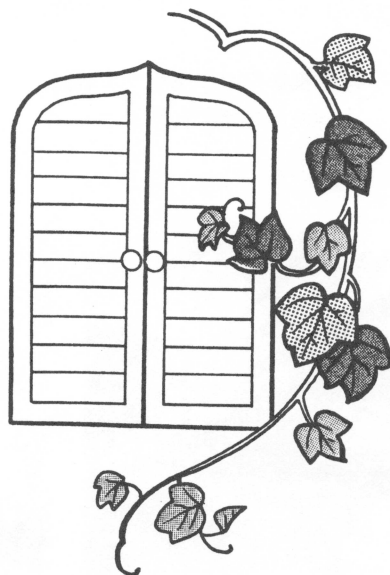
## 中山国際医学医療交流センター発足と今後の方針

センター長 大澤 仲 昭



このたび、田中理事長、藤本学長のきも入りで、大阪医科大学中山国際医学医療交流センター（Nakayama International Center for Medical Cooperation）が発足致しました（平成10年1月16日）。当センターは、医学医療の面での国際的な学术交流、援助、また教育、研究の振興に、本学の立場をふまえて寄与することを目的としておりますが、その点で国際医療協力で活躍されておられる本学出身の中山太郎先生（法人顧問、衆議院議員）の御援助は欠くことの出来ないもので、それは当センターの名称にも反映致しております。

当センターは総合研究棟の1階にあり、現在、小生のほか河野、島原、谷川教授、高松助教授が運営委員をつとめております。当センターの最初の仕事として、去る3月18日～26日、国際協力事業団（JICA）の援助のもと、グルジア国のトビリシ国立医科大学より4名の学者を本学に受け入れ、無事に研修を終えることができました。今後も本学を中心とした国際交流に貢献したいと考えておりますので、皆様方の御協力を宜しくお願い申し上げます。



## (1) グルジア国立トビリシ医科大学研修

3月18日（水）から26日（木）までの9日間、グルジア国立トビリシ医科大学研修生4名を迎え、下記のスケジュールで本学内において研修が実施されました。

		Dr. Levan METREVELI	Dr. Marina MAMALADZE	Dr. Dimitri KORDAZIA	Dr. Helen ABZIANIDZE	
		担当：島田教授	担当：島原教授	担当：谷川教授	担当：河野教授, 大澤教授 岩崎教授	
3	16	月 来日（関西国際空港）				
	17	火 プリーフィング（JICA）				
	18	水 10:00 センターにて学長、病院長表敬 / 14:00 本学施設見学 / 19:00 Reception				
	19	木 研修（解剖学）	研修（口腔外科学）	研修（消化器外科学）	研修（医学生物学）	
	20	金 "	"	"	"	
	21	土				
	22	日				
	23	月	午前：各研修 / 13:30 トビリシ医大紹介（第2会議室）			
	24	火	"	"	"	"
	25	水	午前：各研修 / 14:00 卒業式 / 18:00 謝恩会出席			
	26	木	午前：各研修 / 14:00 全体総括 / 18:00 Farewell party			
	27	金	午前：評価会（JICA）			
	28	土	移動（茨木→東京）			
	29	日				
30	月	会議（JICA 本部）				
31	火	帰国（成田国際空港）				



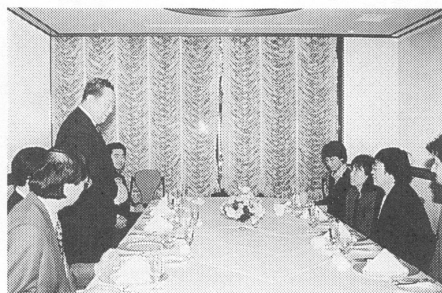
レセプション



中山センター会長との会談

## (2) タイ国エイズ対策プロジェクト カウンターパート研修

3月20日（金）午後3時から、Dr. Petchsri タイパヤオ県衛生局長他3名が本学を表敬訪問し、微生物学研究室、附属図書館等の施設見学を行った後、いばらき京都ホテルにおいてレセプションが行われ、タイ国との医学および医療の交流を深めました。



レセプション（学長挨拶）

## 教室紹介

### 麻醉科学教室

#### — バランス感覚のある 研究、教育、臨床 —

麻醉科学教室は昭和38年5月に開設され国立京都病院麻醉科医長であった兵頭正義先生が助教授として赴任された。当時わが国ではまだ麻醉学教室は数えるほどしか開講されて居らず、関西地区では京都大学に次いで2番目であった。本学においてそれほどまでに麻醉学についての重要性が認識されていたことは、今から思えば驚くべき事である。新設といっても助教授であったこともあり講師の定員もなくにわか所帯を急遽作るために外科その他よりの助手の向出によりスタートした。翌、昭和39年4月、兵頭助教授は教授に昇任し初代主任教授となる。同年、宗之万之助講師、翌年、栗本宗治講師、昭和41年に永山薫造講師、森秀麿講師とスタッフも充実してきた。教室の充実とともに手術麻醉も順

調になったところで本学にとってもわが国にとっても画期的な出来事が兵頭教授によって始められた。日頃から痛みの治療に並々ならぬ関心を有して居られた兵頭教授は新しく痛み治療に特化したペインクリニックを昭和41年に開設された。大きな特徴は、新しい教室である麻醉科が最も古い東洋医学的手法である鍼灸を採り入れるという前代未聞の診療科を作り上げたということである。当時のペインクリニック部門には村山良介講師（非常勤）、中谷義雄講師（非常勤）、田中衛講師、永山薫造講師等が参加した。特筆すべきは鍼灸師が常勤として採用されたことである。ここにわが国唯一の特徴あるペインクリニックの誕生であった。

すでに栗本宗治講師が助教授に昇任し、教授、助教授、講師という教室の体制もできあがっていた。創設期に参加したスタッフ及びその後も含めて当教室から6名の教授を輩出している。この数が多いか少ないかは別として、いずれの科でも講座新設当時は人の出入りが多いもので



麻醉学同門会一同

ある。

現在、初代兵頭教授が亡き後、第二代教授として森秀麿が平成7年より金沢医科大学より着任し、栗本宗治助教授が中央手術部部長として移動後、稲森講師が診療助教授として昇任した。3人の講師すなわち、大塚みき子講師、赤塚正文講師、田中源重講師がそろい、助手、大学院生、専攻医、研修医それに他科からの麻醉研修医によって、手術室における外科麻醉、集中治療室での重傷患者管理、外来病棟での疼痛治療と3本柱を分担してこなしている。

手術室を中心とした臨床麻醉では、わずかな不注意が重大事故につながるために片時も目が離せない現実で、毎日20数件以上の麻醉管理を行い、年間では5000件以上となる。麻醉科外来は現在ペインクリニックが中心で、ほぼ50～60名、新患が2～3名、この内に鍼灸治療のみを希望する患者が10～20名含まれている。過去からの名声によって殆ど近畿全域から来院して

いる。

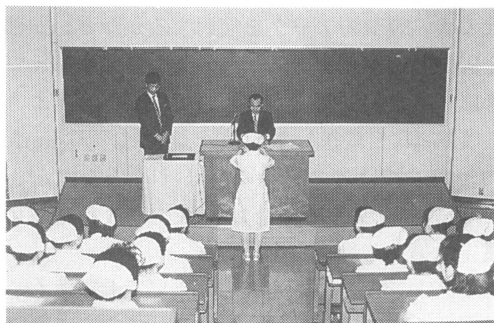
教室の研究は、以前より痛みに力を入れていたためもあり動物実験では脊髄レベルでのプロスタグランدين系統を中心とした薬理作用について大阪バイオサイエンス及び関西医科大学医化学教室と連携しながら行なっている。臨床研究では、現在静脈麻醉薬が見直されつつありその投与方法や術後疼痛管理の研究に重点を置いている。術中の鎮痛はもちろんの事であるが、麻醉開始までの疼痛侵襲をいかに減らすかについても検討を行っている。心臓麻醉においてもいかに早く覚醒させ早期抜管を行うかが現在の焦点でありその検討も行いつつある。外来においては慢性疼痛に対して、動物実験の成果を臨床に生かすべくあらゆる試みが行われている。本学では麻醉科への入局が少なく関連病院での医師の確保にも支障を来しているのが現状である。いかに教員を増やすかが早急に求められている課題でもある。

### 新入職員辞令交付式

4月1日(水)午前9時30分から、臨床第1講堂において、同日付け新規採用者129名に対し、事務局長から辞令が交付されました。

(内訳)

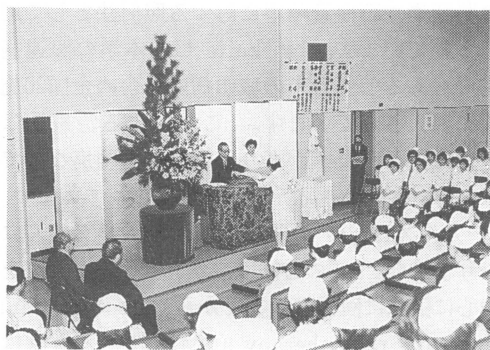
事務職員 13名  
技術職員 21名  
看護職員 95名



### 平成9年度看護専門学校卒業式

看護専門学校卒業式が3月3日(水)午後1時から、臨床第1講堂において挙行され、第一・二看護学科計82名の卒業生が巣立っていきました。

第一看護学科 (第13回) 41名  
第二看護学科 (第29回) 41名





## 海外研修に参加して

### X knife の研修に参加して

脳神経外科学 講師

黒岩敏彦

この度、本学にX knife の導入が決まりました。購入施設のスタッフには4日間の研修が義務付けられていますので、3月7日から13日まで、ボストン郊外のバーリントンに行きまして、X knife はチーム医療が必須で、放射線科の高橋正嗣先生と谷内一夫技術員との3人旅でした。

最初にX knife について簡単に説明しておきます。近年、医療技術とともに治療機器も著しく進歩し、積年の夢であった“less invasive surgery”を一部の領域で現実のものとなりました。脳外科領域で先陣をきったのは、1968年にKarolinska大学のLars Leksell教授によって開発された $\gamma$  knife です。 $\gamma$  knife もX knife も定位的放射線外科療法 stereotactic (ギリシャ語: stereo=3次元、tactic=接する) radiosurgeryという範疇に入りますが、この言葉は既に1951年に彼によって作られています。病巣を三次元的に同定して、放射線治療を“surgery”すなわちメスを持って病巣を切除するかの如くシャープに処理するというものです。最初はパーキンソン病に対する視床破壊のために開発されたものですが、現在では種々の脳腫瘍や脳血管障害に対する照射法として用いられています。 $\gamma$  knife は、本学の関連病院でもある羽曳野市の城山病院を含め全国20施設に導入されています。これによる治療法は既に確立された感があり、転移性脳腫瘍などではほぼ100%近い局所制御率が得られています。一方、X knife の研究も1980年代から盛んになりました。この方法は、ガントリーが1点を中心に弧状に回転することからstereotactic multiple arc radiotherapy (SMART)とも呼ばれています。 $\gamma$  knife と比較した場合の利点

として、通常のライナックを使用するため比較的安価で専用スペースを必要としない、 $\gamma$  knife の線源である $^{60}\text{Co}$ のように定期的に交換する必要がない、多分割照射が容易で放射線生物学的要素を考慮しての治療が可能である、といったことが挙げられます。本学でも今年の夏頃には稼働予定です。通常の放射線治療の間隔を縫って行ないますので、施行症例は限られると思いますが、脳外科領域だけではなく、他の頭頸部病変まで適応が広げられるのではないかと考えています。

X knife についての説明が長くなりましたが、本学に導入されつつあるのはRadionics社とHarvard大学が共同で開発した治療計画装置です。私達が研修を受けたのはバーリントンにあるRadionics社で、その周囲にはHewlett Packard社などのコンピュータ会社が並び、多くの研修者が訪れていました。朝8時頃にホテルにバスが迎えに来て夕方に送り届けられるまで、ソフトの操作方法、頭部固定の方法(BRWまたはGTCフレーム)、精度の検定法、CTとMRI画像のfusion法、などの研修が続きました。各施設に1台づつのコンピュータが与えられ、3人で苦闘する毎日でした。特に私自身はコンピュータがそれほど得意なほうではなく、正に鶉の嘴といったもどかしさを感じました。どの程度の大きさのコリメーターを使用し、どのような角度で、どの程度回転させるか、幾つのアークを使用するかなど、頭部を固定したベッドの回転との兼ね合いもあって考慮すべき要素が多くて複雑です。山のようない資料は後日郵送してもらいました。 $\gamma$  knife の治療成績はどの施設でもほぼ同じですが、X knife の場合には良しも悪しくも各施設の設定次第かと思っています。

ボストンについての説明は不要でしょうが、イギリスから清教徒が最初に連れてこられたところで、いわゆるWASP (White, Anglo-saxon,



Radionics 社の前で佐賀医大のグループと放射線科の高橋先生（前列左）と谷内技術員（後列左）

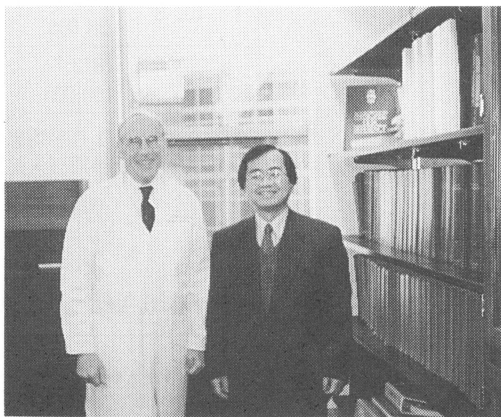
Protestant) の本拠地というイメージがあります。ニューヨーク留学中に、メイフラワー号が到着したというプリマス、同一地点から日出と日没が水平線上にみえるケープコッドなどのボストン近郊は車で訪れたことがあるのですが、市内は初めてでした。丁度ウォーターフロント開発中で多くの工事が行なわれていました。ボストン美術館、小沢征爾率いるボストン交響団が演奏するシンフォニーホール、世界史で習った茶会船、など主な場所は訪れましたが、十分な観光をする時間はありませんでした。一番印象に残っているのは市内を散策中に突然目の前に立ちはだかったFederal Reserve Bank of Boston（いわゆる連邦準備制度理事会）の輪奐たるビルで、近付く者を圧倒するようでした。

この時期は大変な寒さで、道は凍り付いているし、時には吹雪にも見舞われました。もちろん私達以外の観光客にはほとんど会いませんでした。帰国してから半月後にこれを書いています。異常気象でしょうか、今朝の新聞では摂氏31度と書かれていました。こんな季節でも皆が満足したのは食事で、旅の疲れも忘れて健啖家になりきり、Samuel Adams という

ボストンのビールを片手にオイスターやロブスターを頬張りました。

最後の日に、Harvard 大学の脳外科の Chairman である Peter Black 教授にお会いするために Children's hospital を訪れました。昨年、Harvard 大学のグループによって書かれた脳腫瘍に関する本の翻訳本を上梓しましたので、報告がてら編者である Black 教授に挨拶して参りました。脳腫瘍手術の泰斗であり、Brigham and Women's hospital と Children's hospital の Chairman を兼ねられておられ、御多忙ではありましたが時間を割いて下さいました。本を持参しましたところ大変喜んで頂き、サイン入りの原著を頂きました。約束が朝 7 時半という早い時間でしたが、眠いのも忘れて脳腫瘍の手術の話に聞き入りました。

X knife に関しても、種々の脳腫瘍に有効なので是非とも早く試みて欲しいと力説されていました。



Harvard 大学の Black 教授の office で

以上、X knife の研修についてご報告致しましたが、とても今回の研修だけで修得するのは不可能で、本学でも稼働し次第、シミュレーションを繰り返して、一例一例経験を積み重ねて、治療成績の向上を目指したいと思っています。

# 附 属 病 院

## 平成 9 年度 下半期 附属病院 患者動態

本年度 下半期の患者動態は下記の通りです。

(平成 9 年 10 月～平成 10 年 3 月)

	人		対前年度増減率%	
	入院患者数	外来患者数	入院患者数	外来患者数
H. 9.10	(897.5) 27,823	(2593.2) 62,237	6.86	△ 5.08
H. 9.11	(888.4) 26,653	(2495.9) 52,415	1.12	△ 11.95
H. 9.12	(826.0) 25,607	(2737.6) 57,490	0.44	△ 2.43
H. 10.1	(794.6) 24,633	(2556.0) 53,677	4.90	△ 0.66
H. 10.2	(917.4) 25,687	(2593.1) 54,455	6.57	△ 4.79
H. 10.3	(922.7) 28,605	(2754.5) 63,354	3.03	0.38
合 計	(873.7) 159,008	(2623.1) 343,628	3.77	△ 4.11

( ) 内は、1 日平均患者数

\*平成 9 年度 下半期 入院関係稼働日数 182 日 (平成 8 年度 182 日)  
外来関係稼働日数 131 日 (平成 8 年度 144 日)

平成 8 年度・9 年度 (年間… 1 日平均) の動態

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 働 率	外来患者数
8 年度	8 5 4 . 3 人	8 6 . 9 %	2,706.1 人
9 年度	8 8 0 . 9	9 0 . 1	2,626.3

上半期 (4 月～9 月…… 1 日平均)

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 働 率	外来患者数
8 年度	8 6 6 . 5 人	8 8 . 2 %	2,717.3 人
9 年度	8 8 8 . 1	9 0 . 8	2,629.3

下半期 (10 月～3 月…… 1 日平均)

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 働 率	外来患者数
8 年度	8 4 1 . 9 人	8 5 . 6 %	2,694.5 人
9 年度	8 7 3 . 7	8 9 . 3	2,623.1



## 保健管理室からのお知らせ

### <元気なときから健康づくり>

#### B型肝炎検査終了

4/15(水)、16(木) 学生(5、6年)、看専学生、教職員を対象に実施しました。今年度より中央検査部と保健管理室にPCラックスオンライン化に伴い、予め検査の申し込みを行っていただきました。各部署毎に申し込み帳票を配布した結果、例年になく多数の申し込みがありました。

(新採用 教職員140名を除く)内訳は次のとおりです。

	(新規)	(追加)
教員	12	25
学生	127	—
看護婦	71	183
看専	79	40
職員	26	72
合計	344	320

#### VDT作業から心と体の健康を守る

新採用の皆さん新しい職場に馴れましたか。

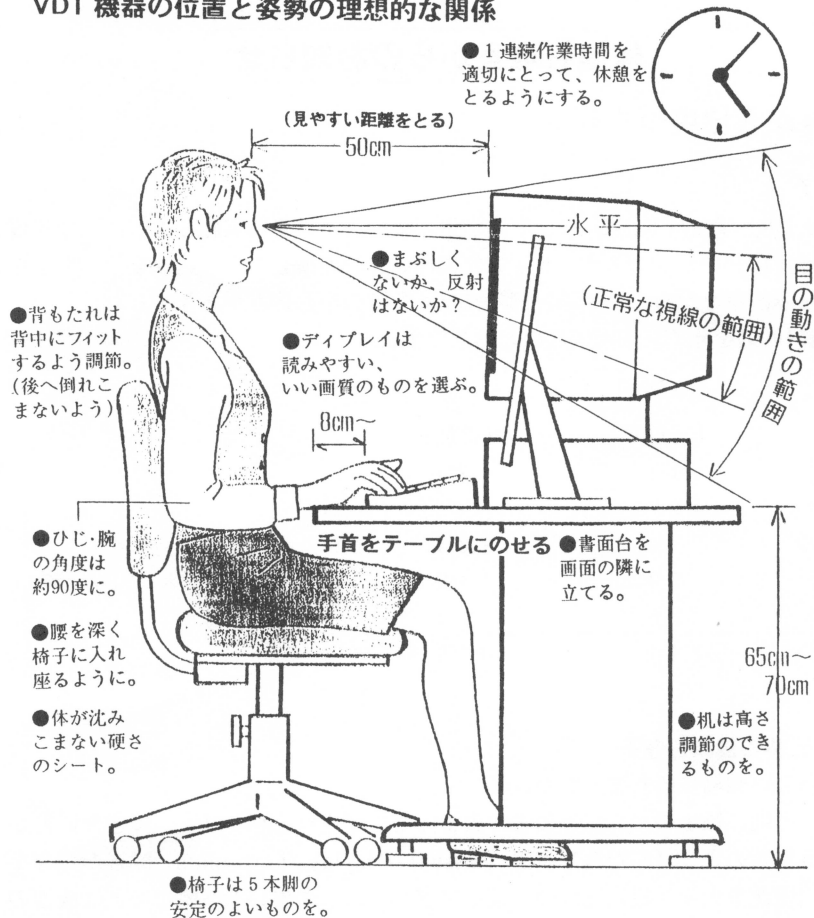
本学もあれよという間に職場のすみずみにまで広まったワープロ・パソコン、付き合い方が悪くて健康を損ねないように、どのようにしたらVDT (Visual Display Terminals) 障害から身を守れるのでしょうか。石川哲北里大学教授は三つの対策をアドバイスします。①不要なときは機器のスイッチを切っておく。②機器の近くで生活しない。③休息をきちんととる。

これらのトラブルはちょっとしたVDTへの配慮と改善でよくなることが多いようです。

(表) VDT作業者の訴える主な症状 (石川哲北里大学教授提供)

直接的自覚症状	日常的自覚症状
1, 眼が疲れる	1, 肩のこり
2, 肩のこり	2, 眼が疲れる
3, いらいらする	3, 朝、おきるのがつらい
4, 頸から肩腕への痛み	4, あくびがでる
5, 眼が痛い	5, いらいらする
6, 物がかすむ	6, ねむけがする
7, 物が見えにくい	7, 疲れがとれない
8, まぶたがピクピクする	8, 遠くの物が見えにくい
9, 腕のこり	9, 物がかすんで見えにくい
10, まばたきが多くなる	10, 頸のこり

## VDT 機器の位置と姿勢の理想的な関係



参照：職場のVDT作業に関する指針（労働省）

### 掲示板

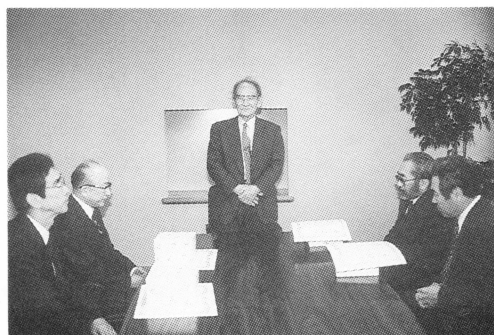
- \* ワクチン接種を申し込んだ方は日時を忘れないようお願い下さい。
- ・ 第一回目ワクチン及び追加ワクチン接種  
平成10年 6月3日（水）PM 2:30～3:30  
6月4日（木）
- ・ 第二回目ワクチン接種、追加接種後抗体確認検査  
平成10年 7月1日（水）PM 2:30～3:30  
7月2日（木）
- \* 特定業務従事者健康診断のお知らせ  
平成10年 6月6日（月）、7（火）、8（水）、15（月）、17（水）  
5日間予定しています。回覧を致しますので確認の上必ず受検して下さい。
- ◎ 教員採用者の方へ  
庶務課へ手続きと同時に雇入時健康診断を一週間以内に受けて下さい。  
詳しくは保健管理室までお問い合わせ下さい。（内線 2291）

## 永年勤続（35年以上）定年退職者表彰

勤続35年以上の定年退職者に対する表彰式が3月31日（火）午前11時30分から理事長室において挙行され、田中理事長から表彰状と記念品が次の4名の方々に授与されました。

〔表彰者氏名〕

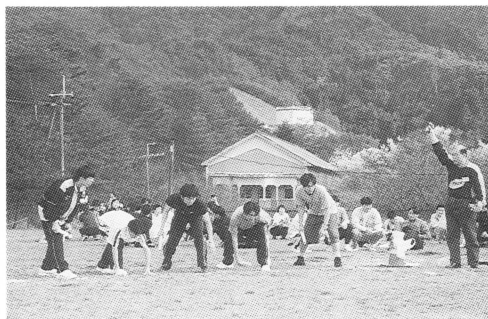
- 渡 邊 千 舟（眼科・診療教授）
- 古 家 鞆 弘（薬剤部長）
- 小 田 省 三（リハビリテーションセンター・技師長）
- 牧 谷 魁 司（庶務課・車輛長）



理事長からの謝辞

## 第3回新入生学外合宿実施

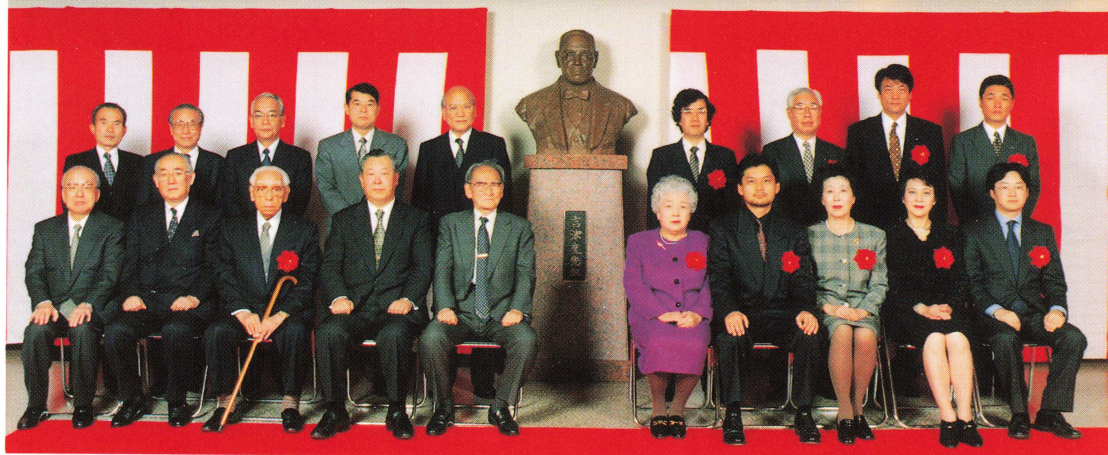
平成10年度医学部新入生に対する学外合宿が京都レクリエーションセンター「亀岡ハイツ」において第1学年100名と教職員30名が参加し、4月4日（土）～6日（月）の2泊3日にわたり開催されました。



### 大阪医科大学俳句会（二〇〇二/三月）

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| 視してから鬼となる追儺かな   | 塚本 務人 |
| 啓蟄や俄フアール誕生す     | 今井 雄介 |
| 志望校二転三転雪だるま     | 中川 一成 |
| 暖房や虎が雀に飴細工      | 奥田 筆子 |
| 節分祭テキ屋の車に夜具が見え  | 同     |
| 大寒やぬくぬくと坐すぬひぐるみ | 吉田 孝江 |
| 角界の呼び出しも引く花粉風邪  | 同     |
| 腰痛は人のみが病む寒の明け   | 飯塚 久子 |
| 両膝が抱く春の冷え大辞林    | 同     |
| きさらぎの鉄扉錆びつく休部かな | 山崎 隆司 |
| 三桎の花や母校は寄付募る    | 同     |

## 吉津度先生胸像除幕式



吉津度先生胸像除幕式 平成10年2月25日

初代理事長の吉津度先生胸像除幕式が2月25日(水)午前11時から、吉津家御親族、胸像制作者の江里敏明先生をお迎えし、田中理事長、藤本学長を始め本法人理事他が出席して挙行されました。

胸像はブロンズ製で台座は朱の御影石づくりとなっており、式典では制作者から、父である江里宗平氏(本願寺仏師)が創設間もない三島病院(本学附属病院)にしばし入院されていたことなどのエピソードが紹介されました。

大阪医科大学学報 第36号

発行年月 平成10年5月

発行 学校法人 大阪医科大学

発行責任者 事務局長 多田 数義

編集・発行 総務部 庶務課